

IDTECH[®]

Value through Innovation



2DScan[™]

バーコードスキャナ ユーザマニュアル

目次

本書について	1
はじめに	1
各章の説明	1
項目の説明	1
最初に	2
はじめに	2
2DScan について	3
開梱	3
製品概要	3
データインターフェース	4
通信ポート	5
USB ケーブルの接続	6
RS232C ケーブルの接続	7
PS/2 ケーブルの接続	8
通信ケーブルの取外し	9
オン/オフ、アイドル、リスタート	10
メンテナンス	10
読取	11
スキャン深度	13
仕様	14
エンジンのプログラミング	
はじめに	15
コードプログラミング	15
コマンドプログラミング	15
QuickSet プログラミング	15
プログラミングの記述	16
コードプログラミングのオン/オフ	17
イルミネーション	18
エイミング	19
ビープ音	20
ビープタイプのデコード	20
ビープタイプのデコード	20
ビープ音ボリュームのデコード	21
電源オンビープ音	21
ビープ音の意味 (ビープ音定義)	21
読取モード	22
タイムアウトディレイの読取	23
センシティビティ	24
Exposure Imaging Mode	25
デフォルト	26
工場デフォルト	26
ユーザデフォルト	26
プロダクト情報のクエリ	27
RS232 インターフェース	
はじめに	28
シリアルポート	29
ボーレート	29
パリティチェック	30
ハードウェアオートフローコントロール (2DScan のみ)	30
転送データビット	31
ストップビット	31

USB インターフェース	
はじめに	32
USB HID-KBW	33
USB カントリーキーボードタイプ.....	34
USB カントリーキーボードタイプ.....	35
未知のキャラクタ、ビープ音.....	36
ALT+キーボードのエミュレート.....	37
ファンクションキーのマッピング.....	38
ASCII ファンクションキーマッピング表.....	39
キーストロークのディレイ.....	40
Caps Lock.....	40
ケースのコンバート	41
数字キーボードのエミュレート	42
USB DataPipe.....	43
USB COM ポートエミュレーション	44
HID POS	45
はじめに	45
作成したプログラムでのデバイスアクセス	45
スキャンしたデータの取得.....	46
VID と PID 表.....	46
PS/2 インターフェース	
はじめに	47
シンボル	
はじめに	48
オプション全般	49
すべての読取をディセーブル.....	49
すべての 1D 読取をイネーブル	49
すべての読取をイネーブル.....	49
すべての 2D 読取をイネーブル	50
すべての 2D 読取をディセーブル.....	50
Code 128.....	51
工場出荷時デフォルトのロード	51
Code 128 のイネーブル/ディセーブル	51
メッセージ長の選択.....	52
EAN-8.....	53
工場出荷時デフォルトのロード	53
UCC/EAN-8 のイネーブル/ディセーブル	53
チェックディジット	53
2 桁アデンダコード	54
5 桁アデンダコード	54
EAN-8 を EAN-13 に拡張する.....	55
EAN-13	56
工場出荷時デフォルトのロード	56
EAN-13 のディセーブル/イネーブル	56
チェックディジット	56
2 桁アデンダコード	57
5 桁アデンダコード	57
UPC-E.....	58
工場出荷時デフォルトのロード	58
EAN-13 のディセーブル/イネーブル	58
チェックディジット	58
2 桁アデンダコード	59
5 桁アデンダコード	59
デフォルトの "0" を転送.....	60
UPC-E を UPC-A に拡張.....	60

UPC-A	61
工場出荷時デフォルトのロード	61
UPC-A のディセーブル/イネーブル	61
チェックディジット	61
2 桁アデンダコード	62
5 桁アデンダコード	62
デフォルトの "0" を転送	63
Interleaved 2 of 5	64
工場出荷時デフォルトのロード	64
Interleaved 2 of 5 のディセーブル/イネーブル	64
メッセージ長の選択	65
チェックディジット	66
指定長	67
ITF-14	68
ITF-6	69
Code 39	70
工場出荷時デフォルトのロード	70
Code 39 のイネーブル/ディセーブル	70
スタートとストップキャラクタの転送	70
メッセージ長の選択	71
チェックディジット	72
ASCII のデコード	72
Codabar	73
工場出荷時デフォルトのロード	73
Codabar のイネーブル/ディセーブル	73
メッセージ長の選択	74
チェックディジット	75
スタート&ストップキャラクタの転送	76
Code 93	77
工場出荷時デフォルトのロード	77
Code 93 のイネーブル/ディセーブル	77
メッセージ長の選択	78
チェックディジット	79
UCC/EAN-128	80
工場出荷時デフォルトのロード	80
UCC/EAN-128 のイネーブル/ディセーブル	80
GSI Databar	81
工場出荷時デフォルトのロード	81
GSI Databar のイネーブル/ディセーブル	81
AI(01) キャラクタの転送	81
EAN-UCC Composite	82
工場出荷時デフォルトのロード	82
EAN-UCC Composite のイネーブル/ディセーブル	82
Code 11	83
工場出荷時デフォルトのロード	83
Code 11 のイネーブル/ディセーブル	83
メッセージ長の選択	84
チェックディジット	85
ISBN	
工場出荷時デフォルトのロード	86
ISBN のイネーブル/ディセーブル	86
転送	86
Industrial 25	87
工場出荷時デフォルトのロード	87
Industrial 25 のイネーブル/ディセーブル	87
メッセージ長の選択	88
チェックディジット	89

Standard 25.....	90
工場出荷時デフォルトのロード	90
Standard 25 のイネーブル/ディセーブル.....	90
メッセージ長の選択	91
チェックディジット	92
Plessey.....	93
工場出荷時デフォルトのロード	93
Plessey のイネーブル/ディセーブル.....	93
メッセージ長の選択	94
チェックディジット	94
MSI-Plessey.....	96
工場出荷時デフォルトのロード	96
MSI-Plessey のイネーブル/ディセーブル.....	96
メッセージ長の選択	97
チェックディジット	98
PDF417.....	99
工場出荷時デフォルトのロード	99
PDF417 のイネーブル/ディセーブル.....	99
メッセージ長の選択	100
PDF417 ツインコード	101
フォワード/ポジティブ方向 PDF417	101
QR Code.....	102
工場出荷時デフォルトのロード QR Code	102
QR Code のイネーブル/ディセーブル.....	102
メッセージ長の選択	103
QR ツインコード.....	103
Aztec.....	105
工場出荷時デフォルトのロード	105
Aztec のイネーブル/ディセーブル.....	105
メッセージ長の選択	106
1つのイメージのマルチバーコードの読取	107
マルチバーコードの数字	108
Data Matrix.....	109
工場出荷時デフォルトのロード	109
Data Matrix のイネーブル/ディセーブル.....	109
メッセージ長の選択	110
Data Matrix ツインコード	111
長方形シンボル	112
フォワード/ポジティブ方向 Data Matrix	112
Maxicode	
工場出荷時デフォルトのロード	113
Maxicode のイネーブル/ディセーブル.....	112
メッセージ長の選択	112
OCR	
はじめに	115
プレフィックス/サフィックス	
はじめに	116
プログラミング全般.....	117
プレフィックス/サフィックスのディセーブル/イネーブル.....	117
プレフィックスシーケンス.....	118
ユーザプレフィックスのディセーブル/イネーブル.....	119
ユーザプレフィックスのプログラム	119
AIM プレフィックス	120
Code ID プレフィックス	121
Code ID デフォルト	121
Code ID の変更	122

ユーザサフィックス.....	125
ユーザサフィックスのディセーブル/イネーブル.....	125
ユーザサフィックスのプログラム.....	125
ストップサフィックス.....	126
ストップサフィックスのディセーブル/イネーブル.....	126
ストップサフィックスのプログラム.....	126
メッセージインタセプションとパック	
はじめに.....	127
メッセージインタセプション.....	128
1D インターセプトオプションのプログラミング.....	129
2D インターセプトオプションのプログラミング.....	130
メッセージパック.....	131
はじめに.....	131
ノーマルパック.....	131
バッチプログラミング	
はじめに.....	132
バッチコマンドの作成.....	133
設定コードの作成.....	134
バッチ設定コードの使用.....	135
APPENDIX	
ディジットコード.....	136
Save と Abort.....	138
工場出荷時デフォルトリスト.....	139
AIM ID リスト.....	144
Code ID リスト.....	145
シンボル ID ナンバー.....	146

本書について

はじめに

本ユーザガイドは、2DScan の設置とプログラミングに関する説明を掲載しています。製品仕様とサイズも含まれます。

各章の説明

「はじめに」では、2DScan バーコードスキャナの操作の概要と電気インターフェースを説明します。

「USB インターフェース」では、USB 接続の 3 つのプロトコルを使用して 2DScan と USB ホストを接続する方法を説明します。4 つのプロトコルは、それぞれ、USB HID-KBW, USB DataPipe, USB COM Port Emulation, HID-POS です。

「RS232C インターフェース」では、2DScan の RS232C インターフェースを使用して一連のホストに接続する方法を説明します。主に、ボーレート、パリティチェック、データビット選択、ストップビット選択、ハードウェア自動フローコントロールの同種の通信パラメータについて説明します。

「PS/2 インターフェース」では、2DScan の PS/2 インターフェースと使用して PS/2 ポートホストに接続する方法とパラメータを説明します。

「シンボル」では、利用可能な全シンボルと、2DScan がサポートするパラメータを記載します。

「OCR」では、OCR 技術についてと、本機能をイネーブル/ディセーブルにするプログラミングバーコードについて説明します。

「プレフィックス/サフィックス」では、プレフィックス/サフィックスの全種類と、それらをプログラムするプログラミングバーコード全般を掲載します。

「メッセージインタセプションとパック」では、メッセージインタセプション&パックの機能について説明し、プログラミングのガイドとバーコードを掲載します。

「バッチプログラミング」では、この機能とバッチプログラミングの規則について説明します。

項目の説明

TOOLS	作業に便利な項目
ATTENTION	注意すべきまたは避けるべき重要なことから
TIPS	トピックまたは機能に関する役立つ情報
例	機能の使い方の説明

最初に

はじめに

2DScan は、1D または 2D のバーコードリーダーです。Auto-ID の商標登録された技術により、2DScan は高速イメージ読取と正確なデコードが可能です。お客様に最高の価値を提供する製品です。

2DScan はハンドヘルドリーダーとしても、またはスタンドに設置しハンズフリーリーダーとしても使用できます。エルゴノミクスデザインにより、快適な使用が可能です。

第 1 章では、2DScan の使い方についての概要をステップバイステップで説明しています。2DScan とスタンドを手元にご用意ください。

本章は、全ユーザ、メンテナンス担当者、ソフトウェアプログラマーの方にお勧めします。

はじめに

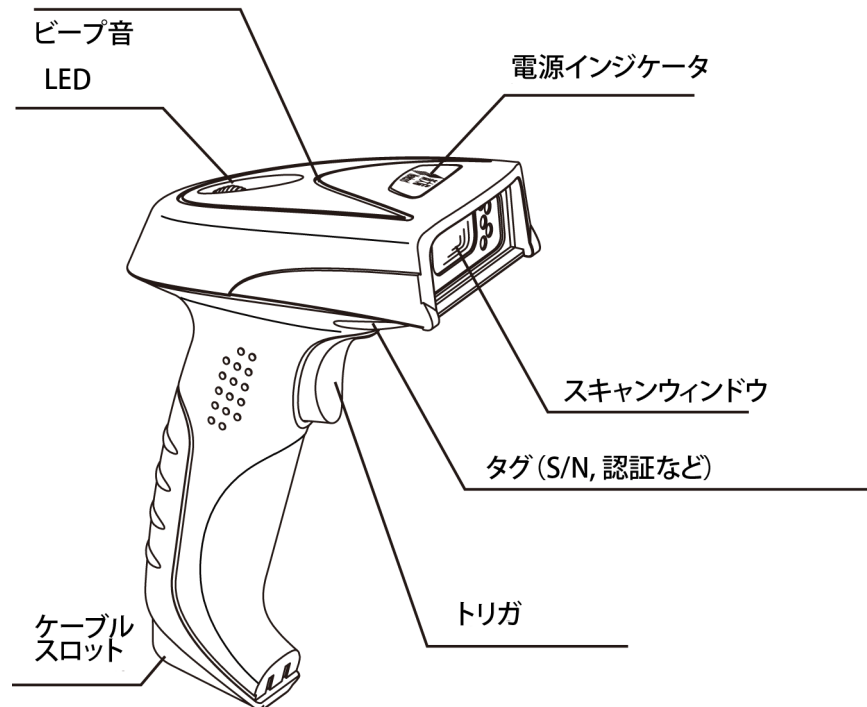
2DScan について

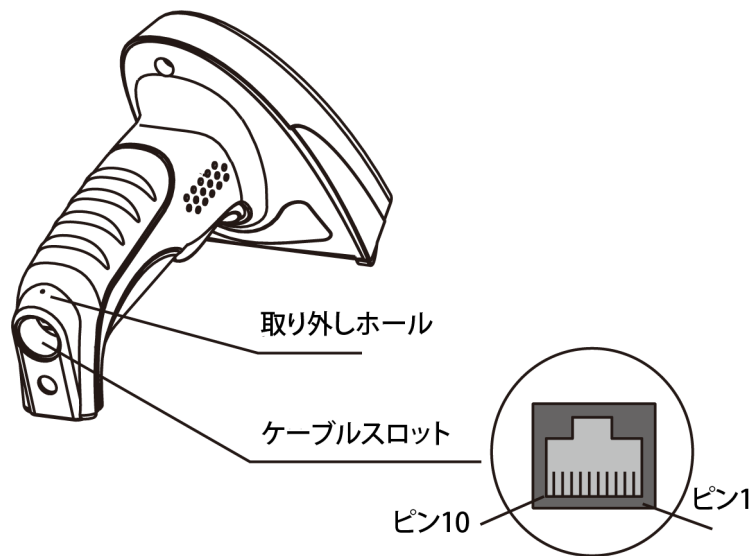
開梱

2DScan と付属品を開梱します。パッキングリストを確認してください。破損や不足部品が無いか確認します。破損や不足があった場合、パッケージを保管しておき、販売店にご相談ください。

製品概要

2DScan の主なコンポーネントを下図に示します。





2DScan 製品は、内蔵するメインボードの異なる 2 種類のタイプがあります。メボードに USB と PS/2 のインターフェースを持つタイプと、USB と RS232C のインターフェースを持つタイプです。

2DScan Interface Definition

Pin	Function
1	NC
2	NC
3	VCC 5.0V
4	TXD
5	RXD
6	CTS
7	RTS
8	GND
9	USBC D-
10	USBC D+

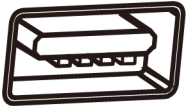
2DScan Interface Definition

Pin	Function
1	NC
2	NC
3	VCC 5.0V
4	KB CLK
5	KB DATA
6	PC CLK
7	PC DATA
8	GND
9	D-
10	D+

2DScan が動作するには、ホストに接続する必要があります。ホストは、PC、POSなどで、USB、RS232C、PS/2 の少なくとも一つの通信ポートを持つインテリジェントターミナルが可能です。

1. USB

ホストの USB ポート



2. RS232C

ホストの RS232C ポート



3. PS/2

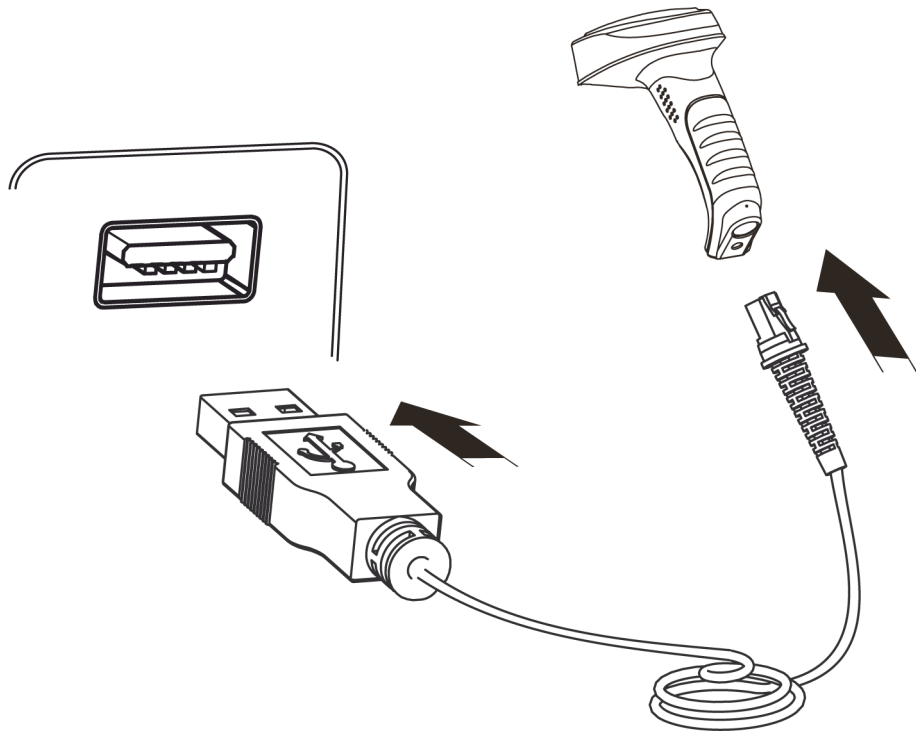
ホストの PS/2 ポート



ATTENTION

2DScan には、USB と PS/2 を持つタイプと、USB と RS232 を持つタイプがあります。ポートを確認して、合致した 2DScan とケーブルを注文してください。

USB ケーブルの接続

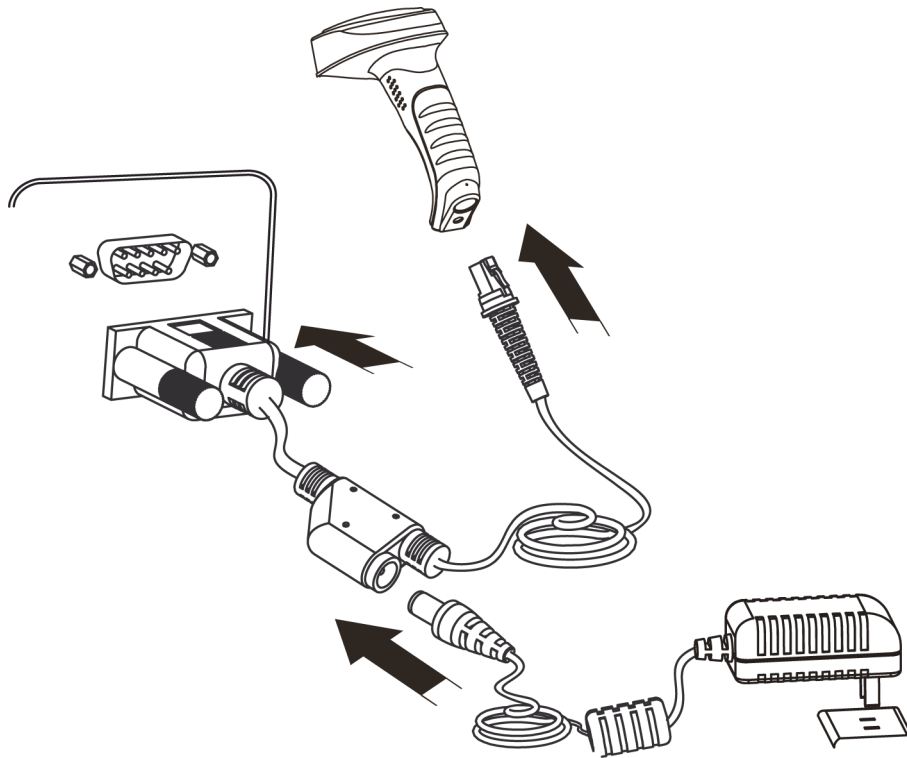


1. USB ケーブル (RJ45 オスヘッド) を、2DScan のケーブルスロットに挿す
2. USB ケーブル (USB オスヘッド) をホスト (メス) の USB コネクタに挿す

ATTENTION

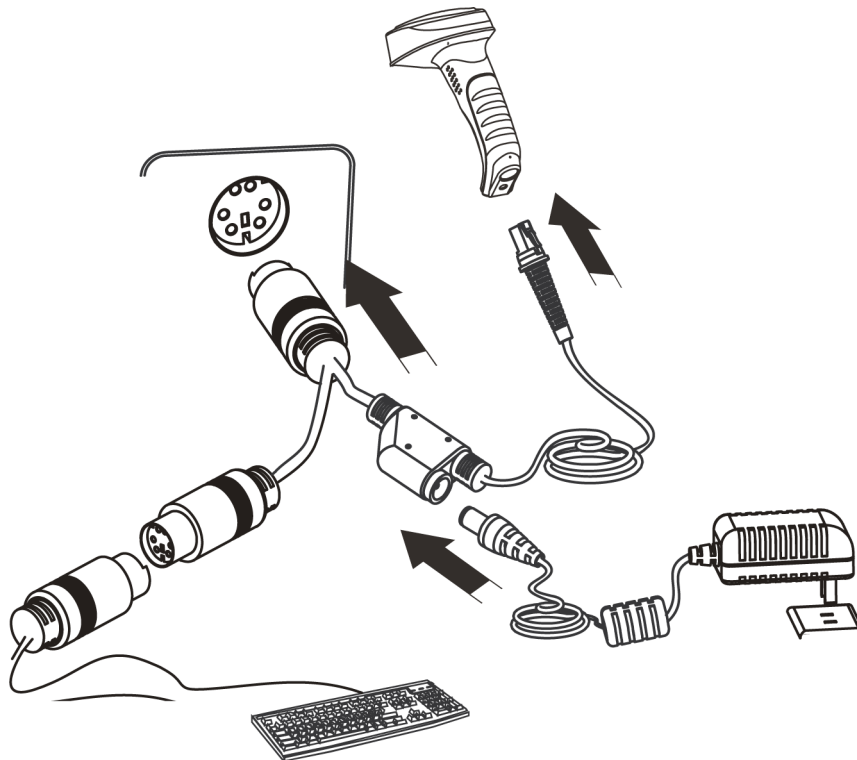
注記：2DScan は DataPipe デバイスです。2DScan との通信には、ホストにドライバをインストールする必要があります。「USB インターフェース」を参照

RS232 ケーブルの接続



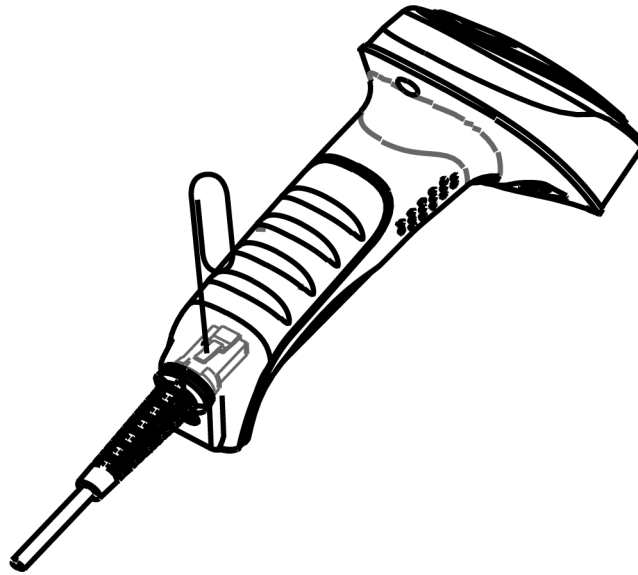
1. RS232 ケーブル (RJ45 オスヘッド) を 2DScan のケーブルスロットに挿す
2. RS232 ケーブル (RS232 オスヘッド) をホスト (メス) RS232 コネクタに挿す
3. RS232 ケーブルを電源アダプタの本体に接続する

PS/2 ケーブルの接続



1. PS/2 ケーブル (RJ45 オス DIN) を 2DScan のケーブルスロットに挿す
2. PS/2 ケーブル (PS/2 オス DIN) をホストの PS/2 メススロットに挿す
3. 必要に応じて、PS/2 ケーブルを電源アダプタの本体に接続する
4. 必要であれば、キーボードを PS/2 ケーブルのメススロットに接続できる

通信ケーブルの取外し



2DScan の取外しホールに合うピンが必要です。ペーパークリップがもっとも適しています。ペーパークリップの一端を伸ばし、取外しホールに挿します。以下の手順に従ってください。

1. RS232 と PS/2 の接続の場合、電源アダプタを抜く。
2. ピンを取外しホールに挿し、軽く押す。
3. ケーブルをそっと引っ張りだす。
4. ケーブルが外れたら、ピンを引っ張りだす。
5. コネクタをホストから外す。

オン／オフ、アイドル、リスタート

電源オン

2DScan とホストを接続します。2DScan は自動的に電源が入り、「アイドル」(待機) 状態になります (工場出荷時デフォルト)

電源オフ

電源オフには、4 つの方法があります。

- ケーブルを 2DScan から取り外す
- 電源アダプタを RS232 ケーブルから取り外す
- USB ケーブルをホストから取り外す
- PS/2 ケーブルをホストから取り外す。電源アダプタが接続されている場合は取り外す。

アイドルモード

リーダが読取を行っていないときは、「アイドルモード」です。

タイムアウト時間内に読取が行われない場合、イメージャは自動的にアイドルモードになります。

リスタート

2DScan が停止し操作に反応しない場合、電源を一旦オフにして再度オンにし、リスタートしてください。

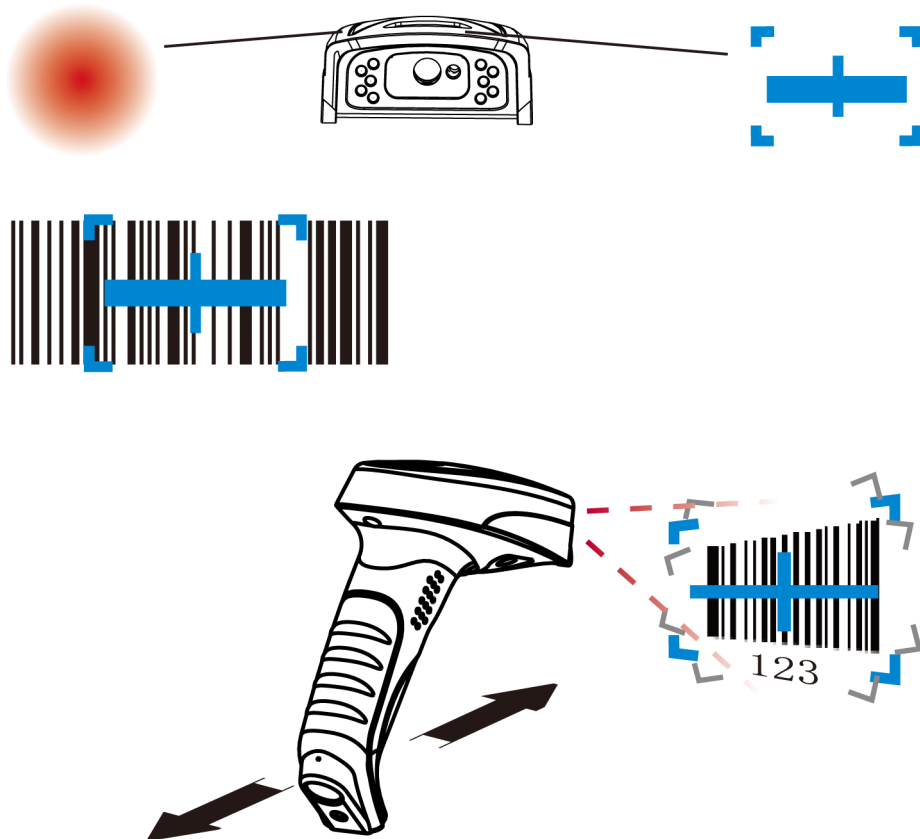
メンテナンス

- スキャンウィンドウはクリーンに保ってください。不適切なメンテナンスは、保証内容を無効にします。
- 粗い表面のものなどでウィンドウを傷つけたり破損したりしないよう注意してください。
- ゴミを取り除くには、ブラシを使用してください。
- 拭き取りには、柔らかい布 (眼鏡用) を使用してください。
- ウィンドウにスプレーをかけないでください。
- 洗浄する場合は、清潔な水だけを使用してください。

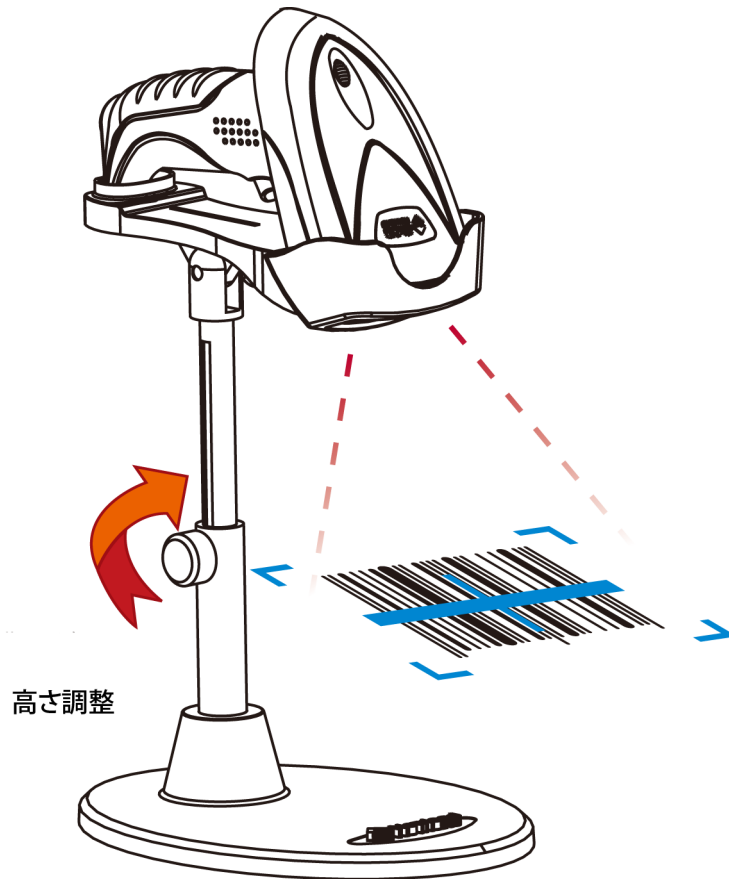
読取

1. 2DScan、ケーブル、ホストが接続されていることを確認してから、装置の電源をオンにします。
2. トリガを押し下げます。イルミネーションLEDと照準LEDが、イルミネーションパターン（赤色ライト）と照準パターン（青色ライト）を照射します。
3. 照準パターンをバーコードの中心に保持します。距離を調整して、最適読取スタンスにします。
4. 正常読取の際は、ビープ音が鳴り、イルミネーションパターンと照準パターンが消えます。2DScanがバーコードメッセージをホストに送信します。

注記:適切な読取レンジを設定できるようになると、読取レートが向上します。このレンジが、最適読取スタンスです。



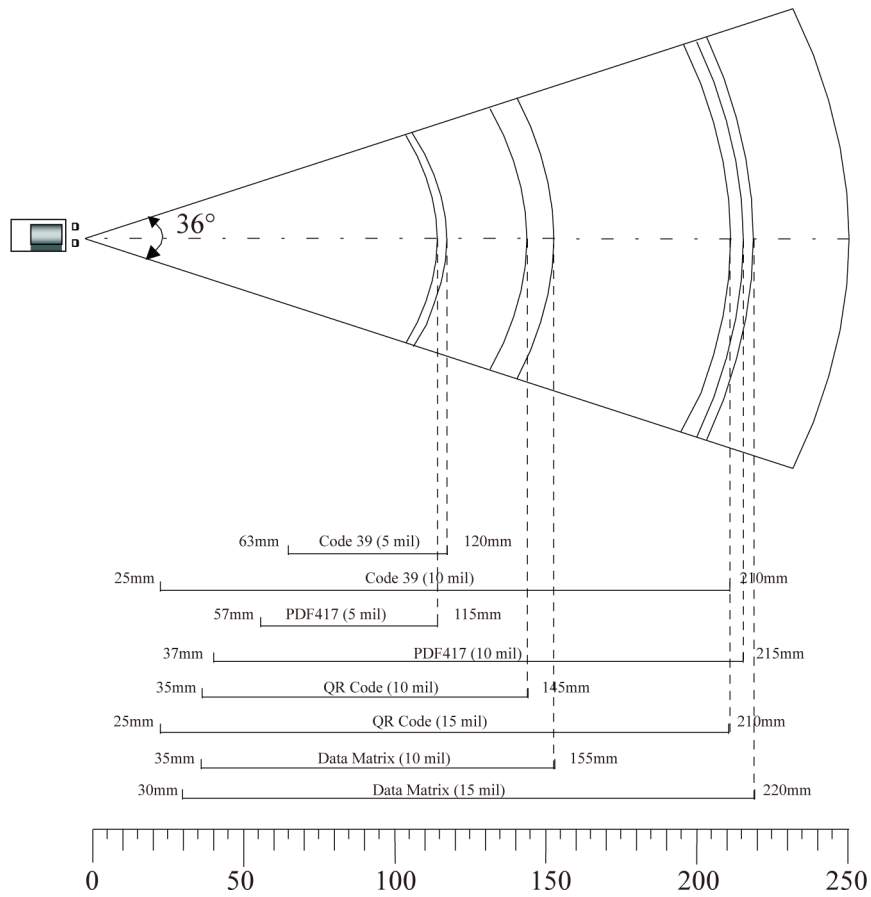
読取



1. ハンズフリーモードで使用するときは、読取モードの「auto mode」か「continuous mode」を選択します。
2. スタンドの高さを、最適読取スタンスに調整します。

スキャン深度

読取スタンスはイメージのフロントと、対象（バーコード）間の距離です。イメージのキャプチャ範囲とイメージのクオリティに影響し、読取性能に影響します。



仕様

Performance		
Image Sensor		CMOS
Resolving		752 * 480
Interface		RS232 / HID-KBW / USB DataPipe/ USB COM Port Emulation / HID-POS/ PS2
Symbologies	2D	PDF417, QR Code(Model 1/2), DataMatrix (ECC200, ECC000, 050, 080,100,140), Aztec, Maxicode, etc.
	1D	Code128, EAN-13, EAN-8, Code39, UPC-A, UPC-E, Codabar, Interleaved 2 of 5, ISBN, Code 93, GS1 Databar, Code 11,etc
Precision		≥ 5mil
Light Source		LED(630 nm ± 10 nm)
Light Intensity		300 LUX (130 mm)
Depth of Scan Field		45 mm ~ 450 mm
Print Contrast Signal		≥ 30%
Roll		360°
Yaw(Skew)		45°
Pitch		45°
Illumination		0 ~ 100,000 LUX
Mechanical/ Electrical		
Power Consumption		1.65 W
Voltage		DC 5 V
Current	Max	330 mA
	Oper.	290 mA
	Idle	200 mA
Weight		250g
Environment		
Operate Temperature		-5° C - +45° C
Storage Temperature		-40° C - +60° C
Humidity		5% - 95% (non-condensing)
Certificates		
FCC Part15 Class B, CE EMC Class B		

エンジンのプログラミング

はじめに

エンジンをプログラム（設定）するには、コードプログラミング、コマンドプログラミング、クイックセットプログラミングの3通りの方法があります。

コードプログラミング

エンジンが、機能をプログラムするために専用エンコードされた、一連のバーコードを読み取ります。以下のセクションで、使用可能なオプションと機能について説明し、プログラムのためのバーコードを掲載します。

この方法は、エンジンをプログラムする方法としてはもっとも簡易です。しかし、各バーコードを手動で読み取る必要があります。手動のため、読取エラーなども生じる恐れがあります。

コマンドプログラミング

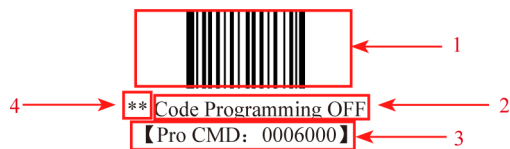
ホストは、Pro CMD 文字列（ソフトウェアインターフェースの章参照）を送信して、エンジンをプログラムできます。以下のセクションで、Pro CMD 文字列をコードプログラミングのためのバーコードとともに掲載します。エンジンをデバイスやシステムにインストールする前に、固定プログラムを使用できます。または、デバイスやシステムを設定する機能を設計することも可能です。

この方法でのエンジンのプログラミングは、自動化できます。ソフトウェアプログラムを開発して、すべての設定データをエンジンにダウンロード可能です。

注記：プログラミングの結果は、不揮発メモリに書き戻されます。エンジンの電源をオフにしても消去されません。

TOOLS

プログラミングの記述



Code Programming ON



Code Programming OFF



これは、コードプログラミングをディセーブルにするための記述です。
記述は、4つの部分からなります。

1. 記述の最初は、コードプログラミングのバーコードです
2. 記述の2番目は、「Disable Code Programming」のような、オプションや機能の名称です。
3. 記述の3番目は、コードプログラミングの Pro CMD 文字列です。
4. 名称の最初に、"***" が付いている場合は、工場出荷時デフォルトです。

TOOLS

コードプログラミングのオン/オフ

Code Programming ON バーコードを読み取って、コードプログラミングの機能をアクティベートします。エンジンを設定するには、ひとつか複数のコードプログラミングバーコードを読み取ることができます。

オプションや機能に桁数などの追加のパラメータが必要な場合、章の末尾に掲載されています。コードプログラミングを終了するには、Code Programming OFF を読み取るか、任意の通常のバーコードを読み取ります。



** Code Programming OFF
【Pro CMD: 0006000】



Code Programming ON
【Pro CMD: 0006010】

コードプログラミングの値は、ホストに送信されます。工場出荷時デフォルトは No Send Pro Code Value であり、プログラミングコードはホストに送信されません。Send Pro Code Value を読み取ると、リーダはプログラミングコードの値をホストに送信します。



**No Send Pro Code Value
【Pro CMD: 0002000】



Send Pro Code Value
【Pro CMD: 0002010】

TOOLS

イルミネーション

バーコードを明るく照らすイルミネーション LED は、文字イメージをキャプチャーするために使用します。

4つのモードがあります。

- Illumination Wink : LED が読取の間点滅
- Illumination Keep ON : LED が電源オンの間点灯
- Illumination Read ON : LED が読取の間点灯
- Illumination OFF : LED が常時オフ

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Illumination Wink
【Pro CMD: 0200000】



Illumination Read ON
【Pro CMD: 0200030】



Illumination Keep ON
【Pro CMD: 0200010】



Illumination OFF
【Pro CMD: 0200020】

TOOLS

エイミング

3つのモードがあります。

- Aim Wink : LED が読取の間点滅
- Aim Keep ON : LED が電源オンの間点灯
- Aim OFF : LED が常時オフ
- Sense Mode : LED が読取の間オフ、読取が無いときオン

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Aim Wink

【Pro CMD: 0201000】



Aim Keep ON

【Pro CMD: 0201010】



Aim OFF

【Pro CMD: 0201020】



Sense Mode

【Pro CMD: 0201030】

TOOLS

ビーブ音

Code Programming ON



Code Programming OFF



ビーブタイプのデコード

Beep ON を読み取ると、ビーブ音の機能をすべてイネーブルにし、Beep OFF を読み取るとディセーブルにします。



**Beep ON
【Pro CMD: 0203010】



Beep OFF
【Pro CMD: 0203000】

ビーブ音のタイプのデコード



**Type 1
【Pro CMD: 0203020】



Type 2
【Pro CMD: 0203021】



Type 3
【Pro CMD: 0203022】

TOOLS

ビーブ音

ビーブ音ボリュームのデコード



** Loud

【Pro CMD: 0203030】



Medium

【Pro CMD: 0203031】



Low

【Pro CMD: 0203032】

Code Programming ON



Code Programming OFF



電源オンビーブ音



** Beep On

【Pro CMD: 0204001】



Beep OFF

【Pro CMD: 0204000】

ビーブ音の意味 (ビーブ音定義)

Beep	Denotation
low-higher-higher-higher	Power ON completed
1 beep	successful reading of an ordinary barcode
2 beeps	successful reading of an programming barcode
3 short low-2 high	reading failure
1 long low	Unknown Character, Virtual Keypad (USB connection)

TOOLS

読取モード

- Hand-held Mode：トリガーラインを引いて押さえて読み取ります。読取を1回完了するか、トリガを放すと、読取ステータスを終了します。
- Auto Mode：エンジン前面の周辺照度が変わると、自動的に読取が始まります。読取が完了すると、エンジンはアイドル状態になります。アイドル中、光の変化とトリガで、読取を始めることができます。
- Continuous Mode：トリガラインを下に引っ張ると、読取を始めます。エンジンは読取を続けます。終了するには、トリガラインを再度下に引っ張ります。

Code Programming ON



Code Programming OFF



**Hand-held Mode
【Pro CMD: 0302000】



Auto Mode
【Pro CMD: 0302010】



Continuous Mode
【Pro CMD: 0302020】

TOOLS

タイムアウトディレイの読取

One Reading Timeout : エンジンがタイムアウト期間にバーコードを読み取らないと、自動的に読取を終了します。One Reading Timeout は、Auto Mode で真です。デフォルトのタイムアウトは 3000 ms です。

Same Barcode Reading Delay : 同じバーコード (同じフォーマットとメッセージ) を、Same Barcode Reading Delay Time 内で誤って読み取るのを防ぐために使用されます。Auto Mode でのみ真です。デフォルトのディレイは 1500 ms です。

Code Programming ON



Code Programming OFF



One Reading Timeout
【Pro CMD: 0313000】



Same Barcode Reading Delay
【Pro CMD: 0313010】

Same Barcode Reading Delay のオプションは 2 つあります。

- (Multi-reading) Prohibit : 同じシンボルは、ディレイの後に読み取られます。
- (Multi-reading)Semi-prohibit : 同じシンボルは、ディレイ期間に一度以上読み取られます。周辺光量が変わった場合、例えば、バーコードを一旦読取エリアから離し、再度戻します。



** Multi-reading Semi-prohibit
【Pro CMD: 0313020】



Multi-reading Prohibit
【Pro CMD: 0313030】

例

One Reading Timeout を 1500ms に設定するには、以下のプログラミングコードを読み取ります。

1. Code Programming ON
2. One Reading Timeout
3. Digit Code "1","5","0","0" (Digit Code 参照)
4. Save Programming

TOOLS

センシティブティ

- Sensitivity は、エンジンが周辺照度の変化にどれだけセンシティブかを示します。
- Sensitivity の値は [1 ~ 20] です。
- センシティブティの値を低くすると、センシティブティは高くなります。センシティブティの値を低くすると、より少ない照度の変化で読取を開始します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



High Sensitivity (= 8)
【Pro CMD: 0312020】



** Normal Sensitivity (= 11)
【Pro CMD: 0312010】



Low Sensitivity (= 14)
【Pro CMD: 0312000】



Enhanced Sensitivity (= 5)
【Pro CMD: 0312030】



Program Sensitivity
(Min:1, Max:20)
【Pro CMD: 0312040】

TOOLS

Exposure Imaging Mode

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Normal Exposure Mode
【Pro CMD: 0321000】



Reflections Eliminating Mode
【Pro CMD: 0321010】

TOOLS

デフォルト

工場出荷時デフォルト

Code Programming ON



Load All Factory Default を読み取ると、すべてのパラメータを工場出荷時デフォルトにリセットできます。

Code Programming OFF



利用できるケース

- ユーザオプションのプログラミングによる誤った設定で、異常な読取動作をしている場合
- 前回のプログラミング設定の詳細を失念し、再度設定する場合



**Load All Factory Default
【Pro CMD: 0001000】

ユーザデフォルト

すべてのユーザオプションは、User Default としてリストアすることができ、不揮発メモリにリストアされます。Save as User Default を読み取ると、すべての現在のユーザオプションをユーザデフォルトとして保存し、前回のユーザデフォルトを消去します。Load User Default を読み取ると、エンジンにユーザデフォルトをリストアします。



Save as User Default
【Pro CMD: 0001150】



Load User Default
【Pro CMD: 0001160】

TIPS

Load All Factory Default を読み取ると、ユーザデフォルトが不揮発メモリにリストアされます。

TOOLS

プロダクト情報のクエリ

プロダクト情報は、Query Product Information バーコードを読み取って取得できます。エンジンは情報を直ちにホストに送信します。Power ON, Send Product Info では、エンジンはシリアルポート（のみ）を通じて、電源オン後ホストにプロダクト情報を送信します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Query Product Information
【Pro CMD: 0003000】



**Power ON, Do not Send Product Info
【Pro CMD: 0007000】



Power ON, Send Product Info
【Pro CMD: 0007010】

プロダクト情報は下記のように提供されます。

Title	Remarks
Firmware Ver	Device Firmware Version
Build Time	Device Firmware Version Establishing Time
Device ID	Device Type
App Ver	Device Application Version
uIMG Ver	Device uIMG Version
Date	Device Manufacture Date
S/N	Device serial number
ESN	User-defined device serial number
Manufacture ID	Device Name
Interface	1 types of communication interfaces: TTL232(EM3000) or RS232(EM2027), baud rate, parity check, data bits, stop bit
1D	Indicate that reading 1D is allowed. Symbols are divided by comma. Additional features format: 1. “+” connect features 2. Min Message Length -> Max Message Length 3. “No Check Digit” or “Check Digit” 4. “Fixed Length: 2~64 even value” . It is in this format: Fixed Length: 2 4 6 8 10 12...
2D	Indicate that reading 2D is allowed. Symbols are divided by comma. Additional feature format: Min Message Length -> Max Message Length
Scan Mode	Scan Mode: 1. Manual Scan 2. Auto Scan 3. Continuous Scan

RS232 インターフェース

はじめに

RS232 接続では、エンジンとホストは同じ通信パラメータを使用します：ボーレート、パリティチェック、データビット選択、ストップビット選択



Enable RS232 Connection
【Pro CMD: 1100000】

TOOLS

シリアルポート

エンジンとホストは、同じシリアルポートパラメータを使用する必要があります：ボーレート、パリティチェック、データビット、ストップビット。シーケンスは以下のとおりです：9600（ボーレート）、ヌル（パリティチェック）、8（データビット）、1（ストップビット）

ボーレート

ボーレートは、一秒間に転送されるデータビットの数です。スキャンエンジンのボーレートを、ホストデバイスの設定するボーレートに合致させないと、通信できません。

エンジンは、以下のボーレートをサポートします（デフォルトのボーレートは9600）：

Code Programming ON



Code Programming OFF



**9600

【Pro CMD: 0100030】



19200

【Pro CMD: 0100050】



1200

【Pro CMD: 0100000】



38400

【Pro CMD: 0100060】



2400

【Pro CMD: 0100010】



57600

【Pro CMD: 0100070】



4800

【Pro CMD: 0100020】



115200

【Pro CMD: 0100080】



14400

【Pro CMD: 0100040】

TOOLS

シリアルポート

パリティチェック

パリティチェックオプションは、エンジンとホストで同じにする必要があります。

- Select Odd parity : データが 1 ビットの奇数を持つ場合、パリティビットの値は 0 に設定される
- Select Even parity : データが 1 ビットの偶数を持つ場合、パリティビットの値は 0 に設定される
- Select No Parity Check : パリティビットは送信されない

Code Programming ON



Code Programming OFF



ハードウェアオートフローコントロール (2DScan のみ)

イネーブルの場合、2DScan はデータが CTS シグナルレベルにあわせて送信されるかを決定します。CTS シグナル低レベルの場合、受信端末 (PC など) のシリアルポートのキャッシュメモリがフルなため、CTS シグナルが受信端末により高レベルに設定されるまで、2DScan がデータを RS232 経由で送らないことを意味します。

2DScan が受信準備が出来ていない場合、RTS シグナルを低レベルに設定します。送信端末 (PC など) が検知すると、データを失わないように、2DScan にデータを送信しません。

ディセーブルにした場合、シリアルポート経由のデータ送受信は、RTS/CTS シグナルには影響されません。



ATTENTION

本機能をイネーブルにする際は、RTS/CTS シグナルラインが RS232 ケーブルに含まれていることを確認してください。含まれていない場合、RS232 通信エラーを生じます。

TOOLS

シリアルポート

転送データビット

5, 6, 7, 8 に転送されたデータビットを選択します。エンジンとホストの選択は同じにします。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** 8 Data Bits

【Pro CMD: 0103030】



6 Data Bits

【Pro CMD: 0103010】



7 Data Bits

【Pro CMD: 0103020】



5 Data Bits

【Pro CMD: 0103000】

ストップビット

ストップビットは、転送末尾と次の転送先端を示す各バイトに続きます。
デフォルトストップビットは1です。



**1 Stop Bits

【Pro CMD: 0102000】



2 Stop Bits

【Pro CMD: 0102010】

USB インターフェース

はじめに

USB 接続でデータ転送のみ必要な場合、USB HID-KBW オプションをプログラムできます。このオプションは、装置の転送を USB キーボード入力としてエミュレートします。ホストは、仮想キーボードのキーストロークを受け取ります。本オプションはプラグ & プレイです。ドライバは不要です。

TOOLS

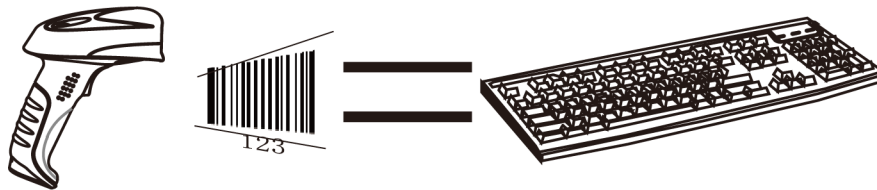
USB HID-KBW

USB 接続（ドライバ不要）は、イメージ転送を USB キーボード入力としてシミュレートします。ホストは、仮想キーボードのキーストロークを受け取ります。本オプションはプラグ & プレイで動作します。ドライバは不要です。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Select USB HID-KBW
【Pro CMD: 1100020】

TIPS

ホストの入力フィールドがキーボード入力可能な場合、HID-KBW 入力を行うためにソフトウェアは必要ありません。

TOOLS

USB HID-KBW

USB カントリーキーボードタイプ

- キーボード配列とカントリーコードは、国により異なります。カントリーコードに関しては、「USB カントリーキーボードタイプ」表を参照してください。プログラミングをするには、以下の手順に従います。

1. Code Programming ON
2. Select Country Code
3. 数字コードを読み取る（カントリーコードによる）
4. Save Programming
5. Code Programming OFF

Code Programming ON



Code Programming OFF



Select Country Code
【Pro CMD: 1103000】

例

ノルウェイキーボードをエミュレートする

1. Code Programming ON
2. Select Country Code
3. 数字コード "1", "5"
4. Save Programming

USB HID-KBW

USB カントリーキーボードタイプ

Country/Language	Number	Country/Language	Number
U.S.	0	Netherlands(Dutch)	14
Belgium	1	Norway	15
Brazil	2	Poland	16
Canada(French)	3	Portugal	17
Czechoslovakia	4	Romania	18
Denmark	5	Russia	19
Finland(Swedish)	6	Slovakia	21
France	7	Spain	22
Germany/Austria	8	Sweden	23
Greece	9	Switzerland(German)	24
Hungary	10	Turkey F	25
Israel(Hebrew)	11	Turkey Q	26
Italy	12	U.K	27
Latin-American	13	Japan	28

TOOLS

USB HID-KBW

未知のキャラクタ、ビープ音

HID-KBW は、カントリーキーボードタイプに含まれないキャラクタを未知のキャラクタと認識します。この場合、キーストロークを割り当てて送信できないため、エラーのビープ音を発します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** No Beep, Unkown Character
【Pro CMD: 1103030】



Beep, Unkown Character
【Pro CMD: 1103031】

例

例えば、カントリーキーボードタイプのフランス（数字7）を選択し、バーコード "AÐF" を読み取ります。"Ð" (0xD0) は、フランスカントリーコードに含まれないため、イメージャは "Ð" を飛ばして "AF" を転送します。工場出荷時デフォルトでは、ビープ音は鳴りません。Beep, Unkown Character を読み取ると、未知のキャラクタを告知します。

TOOLS

ALT + キーパッドのエミュレート

イネーブルの場合、すべての ASCII キャラクタ (0x00 ~ 0xff) が、選択したカントリーキーボードにかかわらず、数字キーパッドから送信できます。

1. "ALT" Make
2. ASCII の値により、数字キーパッドから数字を入力します。
3. ALT Break

Code Programming ON



Code Programming OFF



** No Emulate ALT + keypad
【Pro CMD: 1103060】



Emulate ALT + keypad
【Pro CMD: 1103061】

TIPS

キーストロークのエミュレーションが過多になると、送信速度が低下します。

例

カントリーコード "7" フランスを選択し、Emulate ALT + keypad をイネーブルにします。バーコードメッセージ "AÐF" (65/208/70) は、以下のように送信されます。

1. ALT make" + "0, 6, 5" + "ALT Break"
2. "ALT make" + "2, 0, 8" + "ALT Break"
3. "ALT make" + "0, 7, 0" + "ALT Break"

TOOLS

ファンクションキーのマッピング

イネーブルの場合、ファンクションキャラクタ (0x00~0x1F) が、数字キーパッドで ASCII シーケンスとして送信されます。

1. Ctrl make"
2. ファンクションキートを押す
3. Ctrl Break

Code Programming ON



Code Programming OFF



** No Function Key Mapping
【Pro CMD: 1103130】



Function Key Mapping
【Pro CMD: 1103140】

例

USB HID-KBW を、工場出荷時デフォルトに設定する。“Emulate CTRL + keypad” をイネーブルにする。バーコード“A(tab) F”(0x65/0x09/0x70) を読み取る。シーケンスは下記のようになります。

1. “A” のキーストローク
2. “Ctrl make”, Keystroke “I”, “Ctrl break” によって、“Ctrl I” を入力
3. “F” のキーストローク

* テキストエディタによっては、“Ctrl I” はイタリック変換です。そのため、出力は “AF” となります。

ATTENTION

“Emulate ATL + keypad” をイネーブルにした場合、“Emulate CTRL + keypad” は自動的にディセーブルになります。

ASCII ファンクションキーマッピング表

ASCII(HEX)	Function key	ASCII(HEX)	Function Key
00	2	10	P
01	A	11	Q
02	B	12	R
03	C	13	S
04	D	14	T
05	E	15	U
06	F	16	V
07	G	17	W
08	H	18	X
09	I	19	Y
0A	J	1A	Z
0B	K	1B	[
0C	L	1C	\
0D	M	1D]
0E	N	1E	6
0F	O	1F	.

TOOLS

キーストロークのディレイ

本パラメータは、エミュレートされたキーストローク間のディレイをミリ秒で設定します。以下のプログラムコードを読み取ると、ホストがより低速なデータ転送を必要とする場合にディレイを増加させることができます。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** No Delay

【Pro CMD: 1103050】



Long Delay(40ms)

【Pro CMD: 1103052】



Short Delay(20ms)

【Pro CMD: 1103051】

Caps Lock

データのケースは、ホストの Caps Lock キーの状態にかかわらず、変換されます。大文字・小文字はそのままコンバートされます。



** Disable Caps Lock

【Pro CMD: 1103010】



Enable Caps Lock

【Pro CMD: 1103020】

ATTENTION

“Convert Case”, “Emulate ALT + keypad”, “Function Key Mapping” オプションは、“Enable Caps Lock” に優先します。

例

“Enable Caps Lock” バーコードメッセージ “AbC” は、“aBc” として転送されます。

ケースのコンバート

イメージは、すべてのバーコードメッセージを選択したケースにコンバートします。



** No Case Conversion
【Pro CMD: 1103040】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Convert All to Upper Case
【Pro CMD: 1103041】



Convert All to Lower Case
【Pro CMD: 1103042】

例

“Convert All to Lower Case” バーコードメッセージ “AbC” は “abc” として送信されます。

TOOLS

数字キーボードのエミュレート



ディセーブルにした場合、バーコードメッセージ全体が、メインのキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

本機能をイネーブルにするには、“Emulate Numeric Keypad”を読み取ります。バーコードメッセージが“0-9”の場合、数字キーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。“+” “_” “*” “/” “.”などの記号は、メインのキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

数字キーボードは通常、標準のキーボードの右側にあります。本機能は、ホストの数字キーボードの“Num Lock”の現行の設定に影響されます。エミュレーションの数字キーボードは、“Num Lock”の状態をコントロールできません。そのため、“Num Lock”のライトがオフの場合、出力は数字ではなくファンクションキーとなります。



** Disable Emulate Numeric Keypad
【Pro CMD: 1103110】



Emulate Numeric Keypad
【Pro CMD: 1103120】

ATTENTION

本機能を使用するまえに、Num Lockのライトを確認してください。“Emulate ALT + keypad”は、自動的に本機能をディセーブルにします。

例

“Emulate Number Keyboard”をイネーブルにして“A4.5”バーコードを読み取る。ホストの“Num Lock”がオンの場合、受信するデータは“A4.5”です。“Num Lock”がオフであれば、ホストは、キーボードからデータを以下のように受け取ります。

ホストが“A”のデータを受け取ります。このキャラクタはキーボードには無いが、データは通常通り送信されます。

次にホストが、「カーソルが左に移動」という命令に従い、“4”のデータを受け取ります。

さらに、ホストが、「カーソルの後ろのキャラクタを削除」という命令に従い、“.”のデータを受け取ります。

データ“5”は命令無しに対応するので、データ“4”により入力生成されません。

TOOLS

USb DataPipe

本プロトコルは、Newland Reference により定義されます。リーダと通信するために本プロトコルを使用するには、あらかじめドライバをインストールする必要があります。

本プロトコルを使用するメリットは、高速データ転送です。また、SDK をアプリケーションシステムに簡単にインテグレートすることができます。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Select USB DataPipe
【Pro CMD: 1100010】

TOOLS

USB COM ポートエミュレーション

スキャナからデータを受け取るために USB ポートをホストのシリアルポートに接続する場合は、USB-to-RS232 変換を行うモデルを選択する必要があります。エンジンとホストは、同じパラメータで通信し、本当のシリアルポートと仮想のシリアルポートのパラメータは同じである必要があるためです。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Select USB COM Port Emulation
【Pro CMD: 1100060】

TOOLS
HID POS

はじめに

HID POS インターフェースは、新しいアプリケーションに推奨されます。最高 56 キャラクタを、1 回の USB レポートで送信でき、キーボードエミュレーションより高速です。

特長：

- HID ベースで、カスタムドライバ不要
- キーボードエミュレーションや、通常の RS-232C より高速
- シンボロジー識別子 (AIM またはハンドヘルド製品) は常に入力レポートに含まれます。レポートは方向の名前を使用：入力 (PC へ) と出力 (デバイスへ)

注記：HID POS は、カスタムドライバのインストールは不要です。ただし、Windows 98 上の HID インターフェースには必要です。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Select HID-POS
【Pro CMD: 1100080】

TOOLS
HID-POS

作成したプログラムでのデバイスアクセス

CreateFile は、デバイスを HID としてオープンし、ReadFile で、スキャンしたデータをアプリケーションに渡します。WriteFile でデータをデバイスに送信します。

USB と HID インターフェースに関する詳細の情報は、www.USB.com を参照してください。

Code Programming ON



Code Programming OFF



スキャンしたデータの取得

バーコードをスキャンしてデコードした後、デバイスは下記の入力レポートを送信します。

	Bit							
Byte	7	6	5	4	3	2	1	0
0	Report ID = 0x02							
1	Length of the bar code (field "Decoded Data")							
2-57	Decoded Data (1-56)							
58-61	Reserved (1-4)							
62	Symbology Identifier or N/C: 0x00							
63	7	6	5	4	3	2	1	Decode Data Continued

VID と PID 表

USB は 2 つの数字を使用してデバイスを識別し、適切なドライバを見つけます。最初の数字は、USB メーカー・フォーラムによって割り当てられている VID(ベンダー ID) です。ベンダー ID(VID) は 1EAB(16 進) です。2 番目の数字は、PID(プロダクト ID) です。PID の範囲は、各プロダクトとサブファミリーに使用されるので、各 PID はベースナンバーとインターフェースタイプ(キーボード、COM ポートなど)からなります。

Device	Interface Type	PID(Hex)	PID(Dec)
EM2027	Base	0200	512
	HID POS	0210	528
2DScan	Base	0100	256
	HID POS	0110	272

PS/2 インターフェース

はじめに

PS/2 接続は、HID-KBW 入力としてエミュレートされます。

PS/2 接続は、ホストへのデータ転送のみ行い、ホストからのコマンドのプログラミングはサポートしません。

また、ホットプラグには対応していません。装置の電源がオンのときの抜き差しは、故障の原因になります。



Select PS/2

【Pro CMD: 1100070】

シンボル はじめに

本章では、利用可能な全シンボルと、シンボルをイネーブル／ディセーブルするプログラミングバーコードを掲載します。

利用しないシンボルの読取をディセーブルにすると、読取パフォーマンスを向上させます。読み取るシンボルの数を減らすと、エンジンの動作が高速になります。

オプション全般

すべての読取をディセーブル

Disable Reading All = プログラミングコードのみ読み取る



Code Programming ON

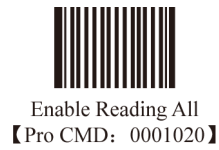


Code Programming OFF

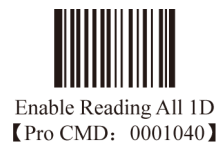


すべての読取をイネーブル

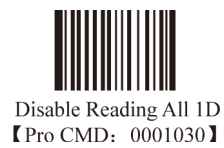
Enable Reading All = すべてのシンボルとプログラミングコードの読取をイネーブルにする



すべての 1D 読取をイネーブル



すべての 1D 読取をディセーブル



TOOLS

オプション全般

すべての 2D 読取をイネーブ



Enable Reading All 2D
【Pro CMD: 0001060】

すべての 2D 読取をディセーブ



Disable Reading All 2D
【Pro CMD: 0001050】

Code Programming ON



Code Programming OFF



TOOLS

Code 128

工場出荷時デフォルトのロード



Code 128 のイネーブル／ディセーブル



TIPS

エンジンが Code 128 を読み取れなかった場合、“Enable Code 128” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Code 128

メッセージ長の選択

Code 128 の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code 128 のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 1)
【Pro CMD: 0400030】



Max Message Length (default: 48)
【Pro CMD: 0400040】

TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127 バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その2つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

例：

Code 128 の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」 Appendix(136 ページ) を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」 を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

EAN-8

工場出荷時デフォルトのロード



** Load UCC/EAN-8 Factory Default
【Pro CMD: 0401000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



UCC/EAN-8 のイネーブル/ディセーブル



** Enable UCC/EAN-8
【Pro CMD: 0401020】



Disable UCC/EAN-8
【Pro CMD: 0401010】

チェックディジット

UCC/EAN-8 は、固定の 8 桁バーコードで、末尾のディジットはチェックディジットです。



**Transmit Check
【Pro CMD: 0401040】



Do Not Transmit Check
【Pro CMD: 0401030】

TOOLS

EAN-8

2桁アデンダコード

アデンダコードは、通常コードの右にあります。下図に、2桁のアデンダコードが付加された通常コードを示します。青い線で囲まれている左側が通常コードです。右側の赤い線の中が2桁のアデンダコードです。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Disable 2 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0401050】



Enable 2 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0401060】

5桁アデンダコード

5桁アデンダコードは、通常コードの右にあります。下図に、5桁のアデンダコードが付加された通常コードを示します。青い線で囲まれている左側が通常コードです。右側の赤い線の中が5桁のアデンダコードです。



** Disable 5 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0401070】



Enable 5 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0401080】

TIPS

“Enable 2 Digits Addenda Code” – 通常コードと2桁アデンダコードを読み取る

“Enable 5 Digits Addenda Code” – 通常コードと5桁アデンダコードを読み取る

“Disable 2 Digits Addenda Code” – 通常コードのみを読み取り、2桁アデンダコードを無視する

TOOLS

EAN-8

EAN-8 を EAN-13 に拡張する

EAN-8 を EAN-13 に拡張するには、左に 0 を 5 バイト追加して転送します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Do Not Expand to EAN-13
【Pro CMD: 0401090】



Expand to EAN-13
【Pro CMD: 0401100】

TOOLS

EAN-13

工場出荷時デフォルトのロード



** Load EAN-13 Factory Default
【Pro CMD: 0402000】

EAN-13 のディセーブル/イネーブル



** Enable EAN-13
【Pro CMD: 0402020】



Disable EAN-13
【Pro CMD: 0402010】

チェックディジット



** Transmit Check
【Pro CMD: 0402040】



Do Not Transmit Check
【Pro CMD: 0402030】

Code Programming ON



Code Programming OFF



TOOLS
EAN-13

2桁ディジットコード

アデンダコードは、通常コードの右にあります。下図に、2桁のアデンダコードが付加された通常コードを示します。青い線で囲まれている左側が通常コードです。右側の赤い線の中が2桁のアデンダコードです。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Disable 2 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0402050】



Enable 2 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0402060】

5桁アデンダコード

5桁アデンダコードは、通常コードの右にあります。下図に、5桁のアデンダコードが付加された通常コードを示します。青い線で囲まれている左側が通常コードです。右側の赤い線の中が5桁のアデンダコードです。



** Disable 5 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0402070】



Enable 5 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0402080】

TIPS

“Enable 2 Digits Addenda Code” – 通常コードと2桁アデンダコードを読み取る

“Enable 5 Digits Addenda Code” – 通常コードと5桁アデンダコードを読み取る

“Disable 2 Digits Addenda Code” – 通常コードのみを読み取り、2桁アデンダコードを無視する

TOOLS

UPC-E

工場出荷時デフォルトのロード



** Load UPC-E Factory Default
【Pro CMD: 0403000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



UPC-E のディセーブル/イネーブル



** Enable UPC-E
【Pro CMD: 0403020】



Disable UPC-E
【Pro CMD: 0403010】

TIPS

エンジンが UPC-E を読み取れない場合、“Enable UPC-E” を読み取り、再試行してください。

チェックディジット

UPC-E は、固定の 8 桁バーコードで、末尾のディジットはチェックディジットです。



** Transmit Check
【Pro CMD: 0403040】



Do Not Transmit Check
【Pro CMD: 0403030】

TOOLS

UPC-E

2桁ディジットコード

アデンダコードは、通常コードの右にあります。下図に、2桁のアデンダコードが付加された通常コードを示します。青い線で囲まれている左側が通常コードです。右側の赤い線の中が2桁のアデンダコードです。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Abort 2 Digits Addenda
【Pro CMD: 0403050】



Enable 2 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0403060】

5桁アデンダコード

5桁アデンダコードは、通常コードの右にあります。下図に、5桁のアデンダコードが付加された通常コードを示します。青い線で囲まれている左側が通常コードです。右側の赤い線の中が5桁のアデンダコードです。



** Disable 5 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0403070】



Enable 5 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0403080】

TIPS

“Enable 2 Digits Addenda Code” – 通常コードと2桁アデンダコードを読み取る

“Enable 5 Digits Addenda Code” – 通常コードと5桁アデンダコードを読み取る

“Disable 2 Digits Addenda Code” – 通常コードのみを読み取り、2桁アデンダコードを無視する

TOOLS

UCP-E

デフォルトの "0" を転送

UPC-E の最初のバイトのデフォルトは "0" です。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Do Not Transmit "0"
【Pro CMD: 0403090】



Transmit "0"
【Pro CMD: 0403100】

UPC-E を UPC-A に拡張する

UPC-E を UPC-A に拡張する標準のアルゴリズムに従ってください。



**Do Not Expand to UPC-A
【Pro CMD: 0403110】



Expand to UPC-A
【Pro CMD: 0403120】

TOOLS

UPC-A

工場出荷時デフォルトのロード



** Load UPC-A Factory Default
【Pro CMD: 0404000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



UPC-A のディセーブル/イネーブル



** Enable UPC-A
【Pro CMD: 0404020】



Disable UPC-A
【Pro CMD: 0404010】

TIPS

エンジンが UPC-A を読み取れない場合、“Enable UPC-A” を読み取り、再試行してください。



**Transmit Check
【Pro CMD: 0404040】



(Do) Not Transmit Check
【Pro CMD: 0404030】

チェックディジット

UPC-A は、固定の 13 桁バーコードで、末尾のディジットはチェックディジットです。

TOOLS

UPC-A

2桁ディジットコード

アデンダコードは、通常コードの右にあります。下図に、2桁のアデンダコードが付加された通常コードを示します。青い線で囲まれている左側が通常コードです。右側の赤い線の中が2桁のアデンダコードです。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Disable 2 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0404050】



Enable 2 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0404060】

5桁アデンダコード

5桁アデンダコードは、通常コードの右にあります。下図に、5桁のアデンダコードが付加された通常コードを示します。青い線で囲まれている左側が通常コードです。右側の赤い線の中が5桁のアデンダコードです。



** Disable 5 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0404070】



Enable 5 Digits Addenda Code
【Pro CMD: 0404080】

TIPS

“Enable 2 Digits Addenda Code” – 通常コードと2桁アデンダコードを読み取る

“Enable 5 Digits Addenda Code” – 通常コードと5桁アデンダコードを読み取る

“Disable 2 Digits Addenda Code” – 通常コードのみを読み取り、2桁アデンダコードを無視する

TOOLS

UPC-A

デフォルトの "0" を転送

UPC-A の最初のバイトのデフォルトは "0" です。

Code Programming ON



Code Programming OFF



**Do Not Transmit "0"
【Pro CMD: 0404090】



Transmit "0"
【Pro CMD: 0404100】

ATTENTION

UPC-A はデフォルトの "0" を持ちますが、UPC-E と異なり出力されません。"Transmit 0" を読み取ると、転送に "0" が追加されます。

TOOLS

Interleaved 2 of 5

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Interleaved 2 of 5 Factory Default
【Pro CMD: 0405000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Interleaved 2 of 5 のディセーブル/イネーブル



** Enable Interleaved 2 of 5
【Pro CMD: 0405020】



Disable Interleaved 2 of 5
【Pro CMD: 0405010】

TIPS

エンジンが Interleaved 2 of 5 を読み取れない場合、“Enable nterleaved 2 of 5” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Interleaved 2 of 5

メッセージ長の選択



メッセージ長の選択

Interleaved 2 of 5 の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。



Interleaved 2 of 5 のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。



TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127 バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その 2 つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

Interleaved 2 of 5 の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」Appendix(136 ページ)を参照。
4. “Save Programming” 「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Interleaved 2 of 5

チェックディジット

Interleaved 2 of 5 は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合（必須ではない）があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。
- “Check, Do Not Transmit Check Digit” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、バーコードメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。
- “Check, Transmit All” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、すべてのメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Interleaved 2 of 5 バーコードビット（チェックディジットを含む）の数は必ず偶数です。奇数の場合、最初の桁に 0 が追加されます。チェックディジットは、バーコードが作成されるとき自動的に生成されます。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0405050】



Check, Do Not Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0405060】



Check, Transmit All
【Pro CMD: 0405070】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス 1 が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例: Min Message Length が 4 バイトの、4 バイト（チェックディジットを含む） Interleaved 2 of 5 を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

TOOLS

Interleaved 2 of 5

指定長

Interleaved 2 of 5 の指定長または、指定範囲内長を読み取るようエンジンをプログラムする。データ長の値は、十進で 3 桁である必要があります。また、データ長の値は、2 から 64 の間の偶数でなければなりません。

本機能をイネーブルにするには、“Enable Specified Length” を読み取り、ディセーブルにするには、“Disable Specified Length” を読み取ります。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Disable Specified Length
【Pro CMD: 0405140】



Add Code Length
【Pro CMD: 0405160】



Enable Specified Length
【Pro CMD: 0405150】



Remove Code Length
【Pro CMD: 0405170】

例

エンジンは、12 と 24 バイトの Interleaved 2 of 5 のみ読み取る。

1. “Code Programming ON”
2. “Enable Specified Length”
3. “Add Code Length”
4. デジットコード “0”, “1”, “2”
5. “Save Programming”
6. “Add Code Length”
7. デジットコード “0”, “2”, “4”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

エンジンは、12 と 24 バイトの間の Interleaved 2 of 5 のみ読み取る

1. “Code Programming ON”
2. “Enable Specified Length”
3. “Add Code Length”
4. デジットコード “0”, “1”, “2”
5. デジットコード “0”, “2”, “4”
6. “Save Programming”
7. “Code Programming OFF”

TOOLS

ITF-14

ITF-14 は固定長で、チェックディジットの付いた 14 バイトの Interleaved 2 of 5 バーコードです。工場出荷時デフォルトでは、ディセーブルです。

イネーブルの場合、ITF-14 は 14 バイトの Interleaved 2 of 5 バーコードに優先します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



**Disable ITF-14
【Pro CMD: 0405080】



Enable ITF-14, Do Not Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0405090】



Enable ITF-14, Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0405100】

ATTENTION

例えば、ITF-14 がイネーブルで Interleaved 2 of 5 がディセーブルの場合、ITF-14 とチェックディジット付きの 14 バイトの Interleaved 2 of 5 を読み取ることができるが、他の Interleaved 2 of 5 は読み取れません。

TOOLS

ITF-6

ITF-6は固定長で、チェックディジットの付いた6バイトのInterleaved 2 of 5バーコードです。

イネーブルの場合、ITF-6は6バイトのInterleaved 2 of 5バーコードに優先します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



**Disable ITF-6 User Selection
【Pro CMD: 0405110】



ITF-6, Read, Do Not Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0405120】



ITF-6, Read, Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0405130】

ATTENTION

例えば、ITF-6がイネーブルでInterleaved 2 of 5がディセーブルの場合、ITF-6とチェックディジット付きの6バイトのInterleaved 2 of 5を読み取ることができるが、他のInterleaved 2 of 5は読み取れません。

TOOLS

Code 39

工場出荷時デフォルトのロード



Code 39 のイネーブル／ディセーブル

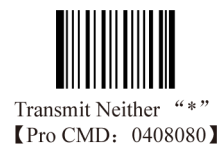


TIPS

エンジンが Code 39 を読み取れなかった場合、“Enable Code 39” を読み取り、再試行してください。

スタートとストップキャラクタの転送

“*” の転送を選択できます。



TOOLS

Code 39

メッセージ長の選択

Code 39 の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Code 39 のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。



Min Message Length (default: 1)
【Pro CMD: 0408030】



Max Message Length (default: 48)
【Pro CMD: 0408040】

TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127 バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その 2 つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

例：

Code 39 の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Code 39

Code 39 は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合(必須ではない)があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。
- “Check, Do Not Transmit Check Digit” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、バーコードメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。
- “Check, Transmit All” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、すべてのメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0408050】



Check, Do not transmit Check Digit
【Pro CMD: 0408060】



Check, Transmit All
【Pro CMD: 0408070】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス1が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例：Min Message Length が4バイトの、4バイト（チェックディジットを含む）Code 39を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

ASCII のデコード

Code 39 は、フル ASCII キャラクターを含みます。工場出荷時デフォルトでは、エンジンは一部しかデコードしません。フル ASCII キャラクターをデコードするには、“Full ASCII decode” を読み取ります。



**Partial ASCII Decode
【Pro CMD: 0408100】



Full ASCII Decode
【Pro CMD: 0408110】

TOOLS

Codabar

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Codabar Factory Default
【Pro CMD: 0409000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Codabar のイネーブル/ディセーブル



** Enable Codabar
【Pro CMD: 0409020】



Disable Codabar
【Pro CMD: 0409010】

TIPS

エンジンが Codabar を読み取れなかった場合、“Enable Codabar” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Codabar

メッセージ長の選択

Codabarの有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Codabarのメッセージ長は、“Min. Message Length”と“Max. Message Length”で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 2)
【Pro CMD: 0409030】



Max Message Length (default: 60)
【Pro CMD: 0409040】

TIPS

1Dバーコードメッセージ長は、127バイトを超えないようにします。Max Message LengthがMin Message Lengthより小さい場合、エンジンが、その2つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message LengthとMin Message Lengthが等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

TOOLS

Codabar

Codabar は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合（必須ではない）があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。
- “Check, Do Not Transmit Check Digit” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、バーコードメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。
- “Check, Transmit All” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、すべてのメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0409050】



Check, Transmit All
【Pro CMD: 0409070】



Check, Do not transmit Check Digit
【Pro CMD: 0409060】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス 1 が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例：Min Message Length が 4 バイトの、4 バイト（チェックディジットを含む）Codabar を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

TOOLS

Codabar

スタート&ストップキャラクタの転送

Codabar は、“A”、“B”、“C”、“D” のいずれかを、スタートとストップのキャラクタとして使用します。これらの転送は選択できます。

Code Programming ON



Code Programming OFF



**Transmit Both Start & Stop Character
【Pro CMD: 0409090】



Transmit Neither Start & Stop Character
【Pro CMD: 0409080】



**Use ABCD/ABCD As Start & Stop Character
【Pro CMD: 0409100】



**Use Upper Letter
【Pro CMD: 0409120】



Use ABCD/TN*E As Start & Stop Character
【Pro CMD: 0409110】



Use Lower Letter
【Pro CMD: 0409130】

TOOLS

Code 93

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Code 93 Factory Default
【Pro CMD: 0410000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Code 93 のイネーブル／ディセーブル



** Disable Code 93
【Pro CMD: 0410010】



Enable Code 93
【Pro CMD: 0410020】

TIPS

エンジンが Code 93 を読み取れなかった場合、“Enable Code 93” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Code 93

メッセージ長の選択

Code 93 の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code 93 のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 1)
【Pro CMD: 0410030】



Max Message Length (default: 48)
【Pro CMD: 0410040】

TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127 バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その 2 つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

例：

Code 93 の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Code 93

チェックディジット

Code 93 は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合（必須ではない）があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。
- “Check, Do Not Transmit Check Digit” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、バーコードメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。
- “Check, Transmit All” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、すべてのメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0410050】



Check, Transmit All
【Pro CMD: 0410070】



** Check, Do not transmit Check Digit
【Pro CMD: 0410060】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス 1 が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例：Min Message Length が 4 バイトの、4 バイト（チェックディジットを含む）Code 93 を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

TOOLS

UCC/EAN-128

工場出荷時デフォルトのロード



** Load UCC/EAN-128 Factory Default
【Pro CMD: 0412000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



UCC/EAN-128 のイネーブル/ディセーブル



** Enable UCC/EAN-128
【Pro CMD: 0412020】



Disable UCC/EAN-128
【Pro CMD: 0412010】

TIPS

エンジンが UCC/EAN-128 を読み取れなかった場合、“Enable UCC/EAN-128” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

GSI Databar

工場出荷時デフォルトのロード



** Load GSI Databar Factory Default
【Pro CMD: 0413000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



GSI Databar のイネーブル／ディセーブル



** Enable GSI Databar
【Pro CMD: 0413020】



Disable GSI Databar
【Pro CMD: 0413010】

TIPS

エンジンが GSI Databar を読み取れなかった場合、“Enable GSI Databar” を読み取り、再試行してください。

AI(01) キャラクタの転送



** Transmit AI(01) Character
【Pro CMD: 0413060】



Do not Transmit AI(01) Character
【Pro CMD: 0413050】

TOOLS

EAN-UCC Composite

工場出荷時デフォルトのロード



** Load EAN-UCC Composite Factory Default
【Pro CMD: 0414000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



EAN-UCC Composite のイネーブル/ディセーブル



Enable EAN-UCC Composite
【Pro CMD: 0414020】



** Disable EAN-UCC Composite
【Pro CMD: 0414010】



Enable UPC/EAN Composite
【Pro CMD: 0414040】



** Disable UPC/EAN Composite
【Pro CMD: 0414030】

TIPS

エンジンが EAN-UCC Composite を読み取れなかった場合、“Enable EAN-UCC Composite” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Code 11

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Code 11 Factory Default
【Pro CMD: 0415000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Code 11 のイネーブル/ディセーブル



Enable Code 11
【Pro CMD: 0415020】



** Disable Code 11
【Pro CMD: 0415010】

TIPS

エンジンが Code 11 を読み取れなかった場合、“Enable Code 11” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Code 11

メッセージ長の選択

Code 11

Code 11 の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Code 11 のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。



Min Message Length (default: 4)
【Pro CMD: 0415030】



Max Message Length (default: 48)
【Pro CMD: 0415040】

TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127 バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その 2 つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

例：

Code 11 の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Code 11

チェックディジット

Code 11 は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合（必須ではない）があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。
- “Check, Do Not Transmit Check Digit” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、バーコードメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。
- “Check, Transmit All” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、すべてのメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0415050】



** Single Check Digit, MOD11
【Pro CMD: 0415060】



Double Check Digits, MOD11/MOD11
【Pro CMD: 0415070】



Double Check Digits, MOD11/MOD9
【Pro CMD: 0415080】



Single Check Digit MOD11 (Len <= 10)
Double Check Digits MOD11/MOD11 (Len > 10)
【Pro CMD: 0415090】



Single Check Digit MOD11 (Len <= 10)
Double Check Digits MOD11/MOD9 (Len > 10)
【Pro CMD: 0415100】



Do not transmit Check Digit
【Pro CMD: 0415110】



** Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0415120】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス 1 が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例：Min Message Length が 4 バイトの、4 バイト（チェックディジットを含む）Code 11 を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

TOOLS

ISBN

工場出荷時デフォルトのロード



** Load ISBN Factory Default
【Pro CMD: 0416000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



ISBN のイネーブル/ディセーブル



Enable ISBN
【Pro CMD: 0416020】



** Disable ISBN
【Pro CMD: 0416010】

TIPS

エンジンが ISBN を読み取れなかった場合、“Enable ISBN” を読み取り、再試行してください。

転送



** Transmit 13 digits
【Pro CMD: 0416030】



Transmit 10 digits
【Pro CMD: 0416040】

TOOLS

Industrial 2 of 5

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Industrial 2 of 5 Factory Default
【Pro CMD: 0417000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Industrial 2 of 5 のイネーブル/ディセーブル



Enable Industrial 2 of 5
【Pro CMD: 0417020】



** Disable Industrial 2 of 5
【Pro CMD: 0417010】

TIPS

エンジンが Industrial 2 of 5 を読み取れなかった場合、“Enable Industrial 2 of 5” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Industrial 25

メッセージ長の選択

Industrial 25 の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Industrial 25 のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 6)
【Pro CMD: 0417030】



Max Message Length (default:48)
【Pro CMD: 0417040】

TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127 バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その 2 つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

例：

Industrial 25 の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Industrial 25

チェックディジット

Industrial 25 は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合（必須ではない）があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。
- “Check, Do Not Transmit Check Digit” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、バーコードメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。
- “Check, Transmit All” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、すべてのメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0417050】



Check, Transmit All
【Pro CMD: 0417070】



Check, Do Not Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0417060】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス 1 が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例：Min Message Length が 4 バイトの、4 バイト（チェックディジットを含む）Industrial 25 を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

TOOLS

Standard 2 of 5

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Standard 2 of 5 Factory Default
【Pro CMD: 0418000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Standard 2 of 5 のイネーブル／ディセーブル



Enable Standard 2 of 5
【Pro CMD: 0418020】



** Disable Standard 2 of 5
【Pro CMD: 0418010】

TIPS

エンジンが Standard 2 of 5 を読み取れなかった場合、“Enable Standard 2 of 5” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Standard 25

メッセージ長の選択

Standard 2 of 5 の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Standard 2 of 5 のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 6)
【Pro CMD: 0418030】



Max Message Length (default:48)
【Pro CMD: 0418040】

TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127 バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その2つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

例：

Standard 2 of 5 の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Standard 2 of 5

チェックディジット

Standard 2 of 5 は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合（必須ではない）があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。
- “Check, Do Not Transmit Check Digit” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、バーコードメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。
- “Check, Transmit All” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、すべてのメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0418050】



Check, Transmit All
【Pro CMD: 0418070】



Check, Do Not Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0418060】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス 1 が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例：Min Message Length が 4 バイトの、4 バイト（チェックディジットを含む）Industrial 25 を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

TOOLS

Plessey

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Plessey Factory Default
【Pro CMD: 0419000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Plessey のイネーブル/ディセーブル



Enable Plessey
【Pro CMD: 0419020】



** Disable Plessey
【Pro CMD: 0419010】

TIPS

エンジンが Plessey を読み取れなかった場合、“Enable Plessey” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Plessey

メッセージ長の選択

Plessey の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Plessey のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 4)
【Pro CMD: 0419030】



Max Message Length (default:48)
【Pro CMD: 0419040】

TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127 バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その 2 つの長さのバーコードのみをサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

例：

Plessey の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Plessey

チェックディジット

Plessey は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合（必須ではない）があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。
- “Check, Do Not Transmit Check Digit” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、バーコードメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。
- “Check, Transmit All” は、読み取ってチェックします。検証が成功すると、すべてのメッセージを転送します。成功しない場合、エンジンは、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0419050】



** Check, Transmit All
【Pro CMD: 0419070】



Check, Do Not Transmit Check Digit
【Pro CMD: 0419060】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス 1 が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例：Min Message Length が 4 バイトの、4 バイト（チェックディジットを含む）Plessey を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

TOOLS

MSI-Plessey

工場出荷時デフォルトのロード



** Load MSI-Plessey Factory Default
【Pro CMD: 0420000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



MSI-Plessey のイネーブル/ディセーブル



Enable MSI-Plessey
【Pro CMD: 0420020】



** Disable MSI-Plessey
【Pro CMD: 0420010】

TIPS

エンジンが MSI-Plessey を読み取れなかった場合、“Enable MSI-Plessey” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

MSI-Plessey

メッセージ長の選択

MSI-Plessey の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

MSI-Plessey のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 4)
【Pro CMD: 0420030】



Max Message Length (default:48)
【Pro CMD: 0420040】

TIPS

1D バーコードメッセージ長は、127バイトを超えないようにします。Max Message Length が Min Message Length より小さい場合、エンジンが、その2つの長さのバーコードのみサポートすることを意味します。Max Message Length と Min Message Length が等しい場合、エンジンは、そのデータ長のバーコードのみをサポートします。

例：

MSI-Plessey の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

MSI-Plessey

チェックディジット

MSI-Plessey は、バーコードメッセージに続くチェックディジット含む場合（必須ではない）があります。チェックディジットは、バーコードメッセージを検証します。

- “NO Check, Transmit All” は、チェック無しで読み取り、バーコードメッセージとチェックディジットを含むすべてのバイトを転送します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



NO Check, Transmit All
【Pro CMD: 0420050】



Double Check Digits, MOD10/MOD11
【Pro CMD: 0420080】



** Single Check Digit, MOD10
【Pro CMD: 0420060】



NO Transmit Check Digits
【Pro CMD: 0420090】



Double Check Digits, MOD10/MOD10
【Pro CMD: 0420070】



** Transmit Check Digits
【Pro CMD: 0420100】

ATTENTION

“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルでバーコードメッセージ長マイナス 1 が Min Message Length より小さい場合、エラーを生じます。

例：Min Message Length が 4 バイトの、4 バイト（チェックディジットを含む）MSI-Plessey を読み取り、“Check, Do Not Transmit Check digit” がイネーブルの場合、エラーを生じます。

TOOLS
PDF417

工場出荷時デフォルトのロード



** Load PDF417 Factory
【Pro CMD: 0501000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



PDF417 のイネーブル／ディセーブル



** Enable PDF417
【Pro CMD: 0501020】



Disable PDF417
【Pro CMD: 0501010】

TIPS

エンジンが PDF417 を読み取れなかった場合、“Enable PDF417” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

PDF417

メッセージ長の選択

PDF417の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

PDF417のメッセージ長は、“Min. Message Length”と“Max. Message Length”で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 1)
【Pro CMD: 0501030】



Max Message Length (default: 2710)
【Pro CMD: 0501040】

TIPS

2Dバーコードメッセージ長は、65535バイトを超えないようにします。Max Message LengthはMin Message Lengthより小さく設定しないでください。固定長のPDF417を読み取るには、Max Message LengthとMin Message Lengthの長さを同じ値にプログラムします。

例：

PDF417のMin Message Lengthを8バイト、Max Message Lengthを12バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

PDF417

PDF417 ツインコード

PDF417 ツインコードは、垂直または水平に2つ並んだPDF417バーコードです。方向は同じにします。仕様は同じで、2つの間の距離は短い必要があります。

PDF417 ツインコードを読み取るには、3つのオプションがあります。

- 単独PDF417のみ：PDF417コードの1つを読み取る
- ツインPDF417のみ：PDF417コードの両方を読み取る。転送順は、左（上）PDF417に続いて右（下）PDF417コード
- 単独またはツイン：PDF417コードの両方を読み取る。正常に読み取った場合、ツインのPDF417としてのみ転送されます。それ以外の場合、単独のPDF417のみを試してください。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Single PDF417 Only
【Pro CMD: 0501070】



Twin PDF417 Only
【Pro CMD: 0501080】



Both Single & Twin
【Pro CMD: 0501090】

フォワード／ポジティブ方向PDF417

PDF417には、フォワードまたはポジティブ方向があります。

フォワード方向バーコード：明るい地色、濃い色のバー

ポジティブ方向バーコード：濃い地色、明るい色のバー



** Forward Direction Barcode Only
【Pro CMD: 0501320】



Positive Direction Barcode Only
【Pro CMD: 0501321】



Both
【Pro CMD: 0501322】

TOOLS

QR Code

工場出荷時デフォルトのロード



** Load QR Code Factory Default
【Pro CMD: 0502000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



QR Code のイネーブル/ディセーブル



** Enable QR Code
【Pro CMD: 0502020】



Disable QR Code
【Pro CMD: 0502010】

TIPS

エンジンが QR Code を読み取れなかった場合、“Enable QR Code” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

QR Code

メッセージ長の選択

QR Code の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

QR Code のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 1)
【Pro CMD: 0502030】



Max Message Length (default: 7089)
【Pro CMD: 0502040】

TIPS

2D バーコードメッセージ長は、65535 バイトを超えないようにします。Max Message Length は Min Message Length より小さく設定しないでください。固定長の QR Code を読み取るには、Max Message Length と Min Message Length の長さを同じ値にプログラムします。

例：

QR Code の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

QR Code

QR ツインコード

QR ツインコードは、垂直または水平に2つ並んだQRバーコードです。方向は同じにします。仕様は同じで、2つの間の距離は短い必要があります。

QR ツインコードを読み取るには、3つのオプションがあります。

- 単独 QR のみ：QR コードの1つを読み取る
- ツイン QR のみ：QR コードの両方を読み取る。転送順は、左（上）QR に続いて右（下）QR コード
- 単独またはツイン：QR コードの両方を読み取る。正常に読み取った場合、ツインのQRとしてのみ転送されます。それ以外の場合、単独のQRのみを試してください。

Code Programming ON



Code Programming OFF



**Single QR Only
【Pro CMD: 0502070】



Both Single & Twin
【Pro CMD: 0502090】



Twin QR Only
【Pro CMD: 0502080】

TOOLS

Aztec

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Aztec Factory Default
【Pro CMD: 0503000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Aztec のイネーブル／ディセーブル



Enable Aztec
【Pro CMD: 0503020】



** Disable Aztec
【Pro CMD: 0503010】

TIPS

エンジンが Aztec を読み取れなかった場合、“Enable Aztec” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Aztec

メッセージ長の選択

Aztecの有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Aztecのメッセージ長は、“Min. Message Length”と“Max. Message Length”で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 1)
【Pro CMD: 0503030】



Max Message Length (default: 3832)
【Pro CMD: 0503040】

TIPS

2Dバーコードメッセージ長は、65535バイトを超えないようにします。Max Message LengthはMin Message Lengthより小さく設定しないでください。固定長のAztecを読み取るには、Max Message LengthとMin Message Lengthの長さを同じ値にプログラムします。

例：

AztecのMin Message Lengthを8バイト、Max Message Lengthを12バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming” 「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Aztec

1つのイメージのマルチバーコードの読取

3つのモードがあります。

- モード1：1つのバーコードのみ読み取る
- モード2：固定数のバーコードのみ読み取る
- モード3：コンポジット読取。先ず固定数のバーコードを読み取り、失敗した場合、1つのバーコードのみ読み取る

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Mode 1
【Pro CMD: 0503070】



Mode 3
【Pro CMD: 0503090】



Mode 2
【Pro CMD: 0503080】

TOOLS

Aztec

マルチバーコードの数字



** 1

【Pro CMD: 0503060】



2

【Pro CMD: 0503061】



3

【Pro CMD: 0503062】



4

【Pro CMD: 0503063】



5

【Pro CMD: 0503064】



6

【Pro CMD: 0503065】



7

【Pro CMD: 0503066】



8

【Pro CMD: 0503067】

Code Programming ON



Code Programming OFF



TOOLS

Data Matrix

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Data Matrix Factory Default
【Pro CMD: 0504000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Data Matrix のイネーブル／ディセーブル



** Enable Data Matrix
【Pro CMD: 0504020】



Disable Data Matrix
【Pro CMD: 0504010】

TIPS

エンジンが Data Matrix を読み取れなかった場合、“Enable Data Matrix” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Data Matrix

メッセージ長の選択

Data Matrix の有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Data Matrix のメッセージ長は、“Min. Message Length” と “Max. Message Length” で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 1)
【Pro CMD: 0504030】



Max Message Length (default: 3116)
【Pro CMD: 0504040】

TIPS

2D バーコードメッセージ長は、65535 バイトを超えないようにします。Max Message Length は Min Message Length より小さく設定しないでください。固定長の Data Matrix を読み取るには、Max Message Length と Min Message Length の長さを同じ値にプログラムします。

例：

Data Matrix の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

TOOLS

Data Matrix

Data Matrix ツインコード

Data Matrix ツインコードは、垂直または水平に2つ並んだ Data Matrix バーコードです。方向は同じにします。仕様は同じで、2つの間の距離は短い必要があります。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Data Matrix ツインコードを読み取るには、3つのオプションがあります。

- 単独 Data Matrix のみ：Data Matrix コードの1つを読み取る
- ツイン Data Matrix のみ：Data Matrix コードの両方を読み取る。転送順は、左（上）Data Matrix に続いて右（下）Data Matrix コード
- 単独またはツイン：Data Matrix コードの両方を読み取る。正常に読み取った場合、ツインの Data Matrix としてのみ転送されます。それ以外の場合、単独の Data Matrix のみを試してください。



**Single Data Matrix Only
【Pro CMD: 0504070】



Twin Data Matrix Only
【Pro CMD: 0504080】



Both Single & Twin
【Pro CMD: 0504090】

TOOLS

Data Matrix

長方形シンボル

Data Matrix には、2つのフォーマットがあります：

- 正方形シンボル、長さと同じ：10 × 10, 12 × 12 … 144 × 144
- 長方形シンボル、長さとは異なる：6 × 16, 6 × 14 … 14 × 22

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Enable Rectangular Symbols
【Pro CMD: 0504110】



Disable Rectangular Symbols
【Pro CMD: 0504100】

フォワード／ポジティブ方向 Data Matrix

Data Matrix には、フォワードまたはポジティブ方向があります。

フォワード方向バーコード：明るい地色、濃い色のバー

ポジティブ方向バーコード：濃い地色、明るい色のバー



** Forward Direction Barcode Only
【Pro CMD: 0504320】



Both
【Pro CMD: 0504322】



Positive Direction Barcode
【Pro CMD: 0504321】

TOOLS

Maxicode

工場出荷時デフォルトのロード



** Load Maxicode Factory Default
【Pro CMD: 0505000】

Code Programming ON



Code Programming OFF



Maxicode のイネーブル／ディセーブル



Enable Maxicode
【Pro CMD: 0505020】



** Disable Maxicode
【Pro CMD: 0505010】

TIPS

エンジンが Maxicode を読み取れなかった場合、“Enable Maxicode” を読み取り、再試行してください。

TOOLS

Maxicode

メッセージ長の選択

Maxicodeの有効読取長をプログラムするために使用します。エンジンは、デコードしたバーコードのデータ長が有効長に合致しない場合は、バーコードメッセージをホストに送信しません。

Maxicodeのメッセージ長は、“Min. Message Length”と“Max. Message Length”で定義します。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Min Message Length (default: 1)
【Pro CMD: 0505030】



Max Message Length (default: 150)
【Pro CMD: 0505040】

TIPS

2D バーコードメッセージ長は、65535 バイトを超えないようにします。Max Message Length は Min Message Length より小さく設定しないでください。固定長の Maxicode を読み取るには、Max Message Length と Min Message Length の長さを同じ値にプログラムします。

例：

Maxicode の Min Message Length を 8 バイト、Max Message Length を 12 バイトに設定するには、下記のプログラミングバーコードを読み取ります。

1. “Code Programming ON”
2. “Select Min Message Length”
3. Digit Code “8”。「Digit Code」を参照。
4. “Save Programming”。「Digit Code」を参照。
5. “Select Max Message Length”
6. Digit Code “1”
7. Digit Code “2”
8. “Save Programming”
9. “Code Programming OFF”

OCR

はじめに

OCR(Optical Character Recognition) は、印刷された情報のイメージをキャプチャし、編集可能なキャラクタとして認識する技術です。

エンジンは、OCR B standard と、以下のような特定のタイプフェイスをサポートします。

■ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 ■

1. OCR-B タイプフェイスの9つの数字が含まれます。
2. 7 と 8 の数字の間はスペースが必要です。
3. “ ■ ” で始まり、終わる必要があります。“ ■ ” と数字の間にはスペースが必要です。



** Load SPEC_OCR_B Factory Default
【Pro CMD: 0600000】



** Disable OCR
【Pro CMD: 0600010】



Enable OCR
【Pro CMD: 0600020】

プレフィックス／サフィックス

はじめに

1D バーコードには、数字、文字、シンボルなどが含まれます。2D バーコードは、漢字や他のマルチバイトキャラクターのようなより多くのデータを含みます。ただし、コードを短くかつフレキシブルに保つために、バーコードタイプ、スキャン日時、デリミタなど必要な情報すべてを持つとは限らず、また持たせるべきではありません。

プレフィックスとサフィックスは、上記のニーズを満たすための仕組みです。元のバーコードには手を加えず、追加、削除、修飾が可能です。

TIPS

バーコード処理シーケンス：

1. バーコードメッセージをインターセプトする
2. プレフィックス／サフィックスを追加する
3. パックする
4. ストップサフィックスでターミネートし転送する

TOOLS

プログラミング全般

プレフィックス／サフィックスのディセーブル／イネーブル

Disable All Prefix/Suffix: : バーコードメッセージをプレフィックス／サフィックスを付けずに転送

Enable All Prefix/Suffix: Code ID プレフィックス、AIM プレフィックス、ユーザプレフィックス、ユーザサフィックス、ストップサフィックスをバーコードメッセージにアペンドする

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Disable All Prefix/Suffix
【Pro CMD: 0311000】



Enable All Prefix/Suffix
【Pro CMD: 0311010】

TOOLS

プログラミング全般

プレフィックスシーケンス

プレフィックスシーケンスの6つのオプション

Code Programming ON



Code Programming OFF



** CodeID + AIM + User Prefix
【Pro CMD: 0317000】



AIM + User Prefix + CodeID
【Pro CMD: 0317030】



CodeID + User Prefix + AIM
【Pro CMD: 0317010】



User Prefix + CodeID + AIM
【Pro CMD: 0317040】



AIM + CodeID + User Prefix
【Pro CMD: 0317020】



User Prefix + AIM + CodeID
【Pro CMD: 0317050】

TOOLS

プログラミング全般

ユーザプレフィックスのディセーブル/イネーブル

ユーザプレフィックスは、バーコードメッセージのまえに追加します。例えば、ユーザプレフィックスが "AB" でバーコードメッセージが "123" の場合、ホストは "AB!123" を受け取ります。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Disable User Prefix
【Pro CMD: 0305000】



Enable User Prefix
【Pro CMD: 0305010】

ユーザプレフィックスのプログラム

"Program User Prefix" をイネーブルにします。次に、ユーザプレフィックスバイトをプログラムします。プレフィックスを終了するには、"Save programming" を読み取ります。ユーザプレフィックスバイトは、16 進値でプログラムされます。以下の例を参照してください。

注記：ユーザプレフィックスの最大長は、10 バイトです。



Program User Prefix
【Pro CMD: 0300000】

例

1. "CODE" をユーザプレフィックスとしてプログラムする ("CODE" の 16 進は 0x43/0x4F/0x44/0x45 です)
2. "Code Programming ON" を読み取る
3. "Program User Prefix" を読み取る
4. "4,3,4,F,4,4,4,5" を順番に読み取る
5. "Save Programming" を読み取る
6. "Code Programming OFF" を読み取る
7. 上記プログラミングを可能にするために "Allow User Prefix" を読み取る。バーコードの左に "CODE" が表示される。

TOOLS

AIM プレフィックス

AIM(Automatic Identification Manufactures) は、多くの標準バーコードフォーマットで AIM プレフィックスを定義しています。

AIM プレフィックスフォーマット：“J” + AIM プレフィックス + “0”

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Disable AIM Prefix
【Pro CMD: 0308000】



Enable AIM Prefix
【Pro CMD: 0308030】

ATTENTION

AIM ID はカスタマイズできません。

TOOLS

Code ID プレフィックス

AIM プレフィックスに加え、Code ID プレフィックスもバーコードフォーマットの記述に使用でき、カスタマイズも可能です。

Code ID プレフィックスは、1 個か 2 個の可読の英文字でなくてはなりません。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** No Code ID Prefix
【Pro CMD: 0307000】



Allow Code ID Prefix
【Pro CMD: 0307010】

Code ID デフォルト



All Bar codes, Load Code ID Factory Default
【Pro CMD: 0307020】

TOOLS

Code ID プレフィックス

Code ID の変更

Code ID の変更と、工場出荷時デフォルトの Code ID へのリストアの方法については、以下の例を参照してください。

例

PDF417 Code ID を "p" に変更 (16 進は 0x70)

1. "Code Programming ON" を読み取る
2. "Modify PDF417" を読み取る
3. デジタルコード "7", "0" を読み取る
4. "Save Programming" を読み取る
5. "Code Programming OFF" を読み取る

Code ID の工場出荷時デフォルトをロードする (PDF417 を含む)

1. "Code Programming ON" を読み取る
2. "2D, Load Code ID Factory Default" を読み取る
3. "Code Programming OFF" を読み取る

Code Programming ON



Code Programming OFF



Modify PDF417
【Pro CMD: 0005000】



Modify QR Code
【Pro CMD: 0005010】



Modify Aztec
【Pro CMD: 0005020】



Modify Data Matrix
【Pro CMD: 0005030】



Modify Maxicode
【Pro CMD: 0005040】



User Define Code
【Pro CMD: 0005090】

TOOLS

Code ID プレフィックス



Modify EAN-8
【Pro CMD: 0004040】



Modify EAN-13
【Pro CMD: 0004050】



Modify UPC-E
【Pro CMD: 0004060】



Modify UPC-A
【Pro CMD: 0004070】



Modify Interleaved 2 of 5
【Pro CMD: 0004080】



Modify ITF-14
【Pro CMD: 0004090】



Modify ITF-6
【Pro CMD: 0004100】



Modify Code 39
【Pro CMD: 0004130】



Modify Codabar
【Pro CMD: 0004150】



Modify Code 93
【Pro CMD: 0004170】

Code Programming ON



Code Programming OFF



TOOLS

Code ID プレフィックス



Modify Code 128
【Pro CMD: 0004020】



Modify UCC/EAN-128
【Pro CMD: 0004030】



Modify Code 11
【Pro CMD: 0004280】



Modify EAN•UCC Composite
【Pro CMD: 0004300】



Modify GS1 Databar
【Pro CMD: 0004310】



Modify ISBN
【Pro CMD: 0004240】



Modify Industrial 25
【Pro CMD: 0004250】



Modify Standard 25
【Pro CMD: 0004260】



Modify Plessey
【Pro CMD: 0004270】



Modify MSI-Plessey
【Pro CMD: 0004290】

Code Programming ON



Code Programming OFF



TOOLS

ユーザサフィックス

ユーザサフィックスのディセーブル/イネーブル

ユーザサフィックスは、バーコードメッセージの右にアペンドされます。例えば、ユーザサフィックスが "AB" でバーコードメッセージが "123" の場合、ホストは "!123AB" を受け取ります。



ユーザサフィックスのプログラム

"Program User Suffix" を読み取ります。次に、ユーザサフィックスバイトをプログラムします。サフィックスを終了するには、"Save programming" を読み取ります。ユーザサフィックスバイトは、16 進値でプログラムされます。以下の例を参照してください。

注記：ユーザサフィックスの最大長は、10 バイトです。



例

"CODE" をユーザサフィックスとしてプログラムする ("CODE" の 16 進は 0x43/0x4F/0x44/0x45 です)

1. "Code Programming ON" を読み取る
2. "Program User Suffix" を読み取る
3. "4,3,4,F,4,4,4,5" を順番に読み取る
4. "Save Programming" を読み取る
5. "Code Programming OFF" を読み取る
6. 上記プログラミングを可能にするために "Allow User Suffix" を読み取る。バーコードの右に "CODE" が表示される。

TOOLS

ストップサフィックスのディセーブル/イネーブル

ストップサフィックスは、バーコードメッセージのストリングの終端です。他のサフィックスやプレフィックスとはフォーマットが異なります。位置はバーコードの右で、転送の末尾に固定されます。

Code Programming ON



Code Programming OFF



**Disable Stop Suffix
【Pro CMD: 0309000】



Enable Stop Suffix
【Pro CMD: 0309010】

ストップサフィックスのプログラム

“Program Stop Suffix” を読み取ります。次に、ストップサフィックスバイトを読み取ります。サフィックスを終了するには、“Save programming” を読み取ります。ストップサフィックスバイトは、16進値でプログラムされます。以下の例を参照してください。

注記：ストップサフィックスの最大長は、2バイトです。



Program Stop Suffix
【Pro CMD: 0310000】



Program Ox0D as Stop Suffix
【Pro CMD: 0310010】



Program Ox0D 0x0A as Stop Suffix
【Pro CMD: 0310020】

メッセージインタセプションとパック

はじめに

バーコードメッセージは、情報をプロダクト ID、製造者 ID などの異なるセクションに分割できます。全体が重要です。ただし、場合により、一部は不要の場合もあります。その場合、メッセージインタセプションが役立ちます。メッセージインタセプション機能は、選択したセクションのみを転送します。メッセージのインターセプトは、“raw” バーコードメッセージにのみ利用できます。

メッセージのインターセプトなしでの転送を読み取る手順は、次のとおりです：“raw” バーコードを読み取る→プレフィックスを追加→サフィックスをアペンド→ストップサフィックスをアペンド→ホストへ転送

メッセージのインターセプト付きでの転送を読み取る手順は、次のとおりです：“raw” バーコードを読み取る→メッセージをインターセプト→プレフィックスを追加→サフィックスをアペンド→ストップサフィックスをアペンド→ホストへ転送

特別なプログラミングであるパックは、バーコードメッセージを特定のメッセージフォーマットに挿入できます。

処理手順は以下のとおりです：バーコードメッセージを読み取る→インターセプト→プレフィックスを追加→サフィックスをアペンド→パック→ストップサフィックスのアペンド→転送

TOOLS

メッセージインタセプション

本機能は、選択したシンボルの raw バーコードのみをインターセプトし、すべてのバーコードフォーマットに影響します。

最大3つのバーコードフォーマットを、スキャナのメモリに格納できます。

バーコードフォーマットはすべて、保管した順番で格納されます。スキャナがすでに3つのバーコードフォーマットを格納していて、新規のバーコードフォーマットを保存すると、既存のバーコードが1つ削除されます。これにより、スキャナが新しいバーコードフォーマットを格納するスペースを持ちます。新規のバーコードフォーマットは、順番の最後に追加されます。

例えば、スキャナに格納されている既存のバーコードフォーマットが1番目 Code 128、2番目 Code 39、3番目 UPC-A の場合です。新規のバーコードフォーマット、QR Code を保存すると、スキャナのメモリは、1番目の既存のバーコードフォーマット、Code 128 を削除します。新規の格納データは、1番目 Code 39、2番目 UPC-A、3番目 QR Code になります。スキャナに格納された3つのバーコードフォーマットの中で、1度に1つのバーコードだけがアクティベートされます。デフォルト設定では、最後にスキャナに格納されたバーコードフォーマットがアクティベートされます。他のバーコードフォーマットをアクティベートするには、マニュアルでアクティベートを行う必要があります。

Code Programming ON



Code Programming OFF



**Disable Interception
【Pro CMD: 0315000】



Enable Interception
【Pro CMD: 0315010】



Program Intercept Option
【Pro CMD: 0316000】



Erase Certain Barcode Interception Options
【Pro CMD: 0316010】



Erase Latest Interception Options
【Pro CMD: 0316020】



Erase All Interception Options
【Pro CMD: 0316030】

TOOLS

メッセージパック

はじめに

データパックは、バーコードメッセージの特別なニーズに対応しています。データパックには、3つのタイプがあります。データパックはすべてのデータフォーマットに影響するので、パックが不要の場合、デフォルトの“Disable Pack”を必ずロードしてください。

Code Programming ON



Code Programming OFF



** Disable Pack

【Pro CMD: 0314000】

ノーマルパック

ノーマルパックフォーマット：

[STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE + DATA] + [LRC]

- STX : 0x02 »
- ATTR : 0x00 »
- LEN : バーコードメッセージ長は 2 バイトで表現され、範囲は “0x0000~0xFFFF” で、0 から 65535 を意味する。
- AL_TYPE : 0x36 »
- DATA : バーコードメッセージ »
- LRC : パリティタイプ

アルゴリズム：

1. 計算のシーケンス：LRC=0xFF+STX+ATTR+LEN+AL_TYPE+DATA 1、
2. 計算のメソッド：XOR, バイト毎



Normal Pack

【Pro CMD: 0314010】

バッチプログラミング

はじめに

バッチプログラミングは、プログラミングのシーケンスを1つのバーコードにまとめることができます。

バッチプログラミングの手順は以下のとおりです。

1. サブコマンドのフォーマット：プログラミングコマンド+パラメータ
2. サブコマンドの末尾はセミコロン。サブコマンドと、ターミネータのセミコロンの間には空白がないことに注意。
3. “Save Programming”(0000160) で終了
4. 2D バッチバーコードの作成には、Barcode Generator ソフトウェアを使用

Code Programming ON



Code Programming OFF



例えば、Interleaved 2 of 5 のために、“Illumination Keep ON”(0200030), “Auto Mode”(0302010), “One Reading Timeout = 2000”(0313000), “Disable Fixed Length Selection”(0405140) のバッチコードを生成します。

0200030; 0302010; 0313000 = 2000; 0405140; 0000160; バッチコードを生成



Allow Read Batch Code
【Pro CMD: 0001110】

バッチコマンドの作成

バッチコマンドには、多くのコマンドを含むことができます。各コマンドは、セミコロンで分けられます。バッチコマンドの最後は、save コマンドです。

コマンドのストラクチャ：コマンド (+等号+設定情報)

設定コマンドリストは、下記に記載します。

4つの設定コマンドモードがあります。

1. 設定シンタックス 1：コマンド

コマンドは通常、コマンドなしでも 1 回で設定できるものです。

例：

ボーレートを 38400 bps に設定：0100060

コマンド設定オートモード：0302010

2. 設定シンタックス 2：コマンド+等号+数字

このコマンドは、バーコードの最大長と最小長、読取タイムアウト設定、同一バーコード読取ディレイ設定、センシティブティ値設定などのパラメータの値を設定するために使用されます。

例：

読取タイムアウトを 3000ms に設定するコマンド：0313000 = 3000

センシティブティ値設定を 10 に設定するコマンド：0312040 = 10

3. 設定シンタックス 3：コマンド+等号+ 16 進 (0x101a, 0x2C03 など)

このコマンドは、ユーザ定義プレフィックス、ユーザ定義サフィックス、終端サフィックス、Code ID の設定に使用でき、バーコード長の値や情報のインタセプションなどを増加またはキャンセルします。注記：コマンドの 2 つの 16 進は、設定キャラクタを表します。

例：

interleaved 2of 5 の固定長 4 を 26 にアペンド：0405160 = 0x041a

末尾のサフィックス情報を CR/LF として設定：0310000 = 0x0d0a

4. 設定シンタックス 4：コマンド+等号+ダブルクォーテーション

設定情報が可読キャラクタの場合、この設定モードが適切です。

例：

ユーザ定義プレフィックス情報を AUTO-ID に設定：0300000 = "AUTO-ID"

設定コードの作成

PDF417, QR code, DataMatrix にコマンドリスト (save コマンドで終了) を作成します。

例えば、以下のようなバッチコマンドを作成するには、最初にコマンドを見つけてます : light Always On, Auto Scan, change delay time to 2 seconds, Disable Fixed Length of 1 2 of 5

0200030; (light Always On)

0302010; (Auto Mode)

0313000 = 2000; (change One Reading Timeout to 2 seconds)

0405140; (Disable Fixed Length of Interleaved 2 of 5)

0000160; (Save)

バッチ設定コード (PDF417) は、下記のとおりです。



TOOLS

バッチ設定コードの使用

“Code Programming ON” を読み取り、次に、“Enable Batch Setting Code” を読み取り、結果として生成されたバッチ設定コードを読み取り、最後に “Code Programming OFF” を読み取ります。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Code Programming ON
【Pro CMD: 0006010】



Allow Read Batch Code
【Pro CMD: 0001110】



Batch Setting Code



Code Programming OFF
【Pro CMD: 0006000】

Appendix

ディジットコード

ディジットコードを読み取った後には、save コマンドを読み取る必要があります。



0

【Pro CMD: 0000000】



4

【Pro CMD: 0000040】



1

【Pro CMD: 0000010】



5

【Pro CMD: 0000050】



2

【Pro CMD: 0000020】



6

【Pro CMD: 0000060】



3

【Pro CMD: 0000030】



7

【Pro CMD: 0000070】

ディジットコード



8

【Pro CMD: 0000080】



C

【Pro CMD: 0000120】



9

【Pro CMD: 0000090】



D

【Pro CMD: 0000130】



A

【Pro CMD: 0000100】



E

【Pro CMD: 0000140】



B

【Pro CMD: 0000110】



F

【Pro CMD: 0000150】

TOOLS

Save と Abort

受け取ったデータを保存するには、データ送信完了後に "Save" を読み取る必要があります。データ読取時にエラーが生じた場合は、異常データを削除しセットアップを再度行うことができます。

例: プログラムコードを受け取って、次に "1 2 3" を順番に受け取り、その後 "Abort One Data of Current Setting" を読み取ると、"3" が削除されます。"Abort One String of Current Setting" を読み取ると、"123" が削除されます。"Abort Current Setting" を読み取ると、プログラムコードと "123" の両方が削除され、デバイスは、プログラムコードの初期化の状態になります。

Code Programming ON



Code Programming OFF



Save

【Pro CMD: 0000160】



Abort One Data of Current Setting

【Pro CMD: 0000170】



Abort Current Setting

【Pro CMD: 0000190】



Abort One String of Current Setting

【Pro CMD: 0000180】

工場出荷時デフォルトリスト

Parameters	Factory Default	Remark
General Programming		
Code Programming	Off	
Send Pro Code Value	Off	
Illumination	Illumination Wink	
Aiming	Aiming Wink	
Decoding Beep	On	
Decoding Beep Type	Type 1	
Decoding Beep Volume	Loud	
Power On Beep	On	
Working Mode	Hand-held Mode	
One Reading Timeout	3000ms	
Same Barcode Reading Delay	Multi-reading Semi-prohibit, 1500ms	
Sensitivity	Normal Sensitivity	Sensitivity = 11
Exposure Imaging Mode	Normal Exposure Mode	
Power On, Send Product Info	Off	
OCR	Off	
Communication Programming		
Baud Rate	9600	RS232
Serial Port Check	No Check	RS232
Transmit Digits	8 Digits	RS232
Stop Digit	1 Digit	Fixed, RS232
Hardware Auto Flow Control	Off	RS232
Unkown Character, Beep	Off	USB HID-KBW
Emulate ALT + keypad	Off	USB HID-KBW
Function Key Mapping	Off	USB HID-KBW
Keystroke Delay	No Delay	USB HID-KBW
Caps Lock	Off	USB HID-KBW
Convert Case	Off	USB HID-KBW
Emulate Numeric Keypad	Off	USB HID-KBW
Data Format Programming		
Add Prefix/Suffix	Off	
Prefix Sequences	CodeID+User Prefix+AIMID	CodeID+AIMID+(Prefix+Data) +Suffix+Terminators
AIMID	Off]Cm Mark
CodeID	Off	One Digit, Capital or Small Letter
User Prefix	Off	No more than 10 digits
User Suffix	Off	No more than 10 digits
Stop Suffix	Off	No more than 2 digits
Interception	Off	
Pack	Off	

工場出荷時デフォルトリスト

Parameters	Factory Default	Remark
Symbol		
Code 128		
Enable	On	
Max Message Length	48	
Min Message Length	1	
EAN-8		
Enable	On	
Send Check Digit	On	
Enable 2 Digits Addenda Code	Off	
Enable 5 Digits Addenda Code	Off	
Expand to EAN-13	Off	
EAN-13		
Enable	On	
Send Check Digit	On	
Enable 2 Digits Addenda Code	Off	
Enable 5 Digits Addenda Code	Off	
UPC-E		
Enable	On	
Send Check Digit	On	
Enable 2 Digits Addenda Code	Off	
Enable 5 Digits Addenda Code	Off	
Expand to UPC-A	Off	
Send Default "0"	Off	
UPC-A		
Enable	On	
Send Check Digit	On	
Enable 2 Digits Addenda Code	Off	
Enable 5 Digits Addenda Code	Off	
Send Default "0"	Off	
Interleaved 2 of 5		
Enable	On	
Check	Off	
Send Check Digit	Off	
Max Message Length	80	

工場出荷時デフォルトリスト

Min Message Length	6	No less than 4
Specified Lengths	Off	
ITF-6		
Enable	Off	
ITF-14		
Enable	Off	
Code 39		
Enable	On	
Check	Off	
Send Start & Stop Character	On	
Support Full ASCII	Off	
Max Message Length	48	
Min Message Length	1	
Codabar		
Enable	On	
Check	Off	
Send Start & Stop Character	On	ABCD/ABCD, Upper Case
Max Message Length	60	
Min Message Length	2	
Code 93		
Enable	Off	
Check	On	
Send Check Digit	Off	
Max Message Length	48	
Min Message Length	1	No less than 1
UCC/EAN-128		
Enable	On	
GSI Databar		
Enable	On	
Send AI(01) Character	On	
EAN•UCC Composite		
Enable	Off	
UPC/EAN Composite Enable	Off	
Code 11		
Enable	Off	
Send Check Digit	On	

工場出荷時デフォルトリスト

1 Digit, MOD11 Check	On	
Max Message Length	48	
Min Message Length	4	No less than 4
ISBN		
Enable	Off	
Transmit 13 Digits	On	
Industrial 25		
Enable	Off	
Check	Off	
Max Message Length	48	
Min Message Length	6	No less than 4
Standard 25		
Enable	Off	
Check	Off	
Max Message Length	48	
Min Message Length	6	No less than 4
Plessey		
Enable	Off	
Check and Transmit Check Digits	On	
Max Message Length	48	
Min Message Length	4	No less than 4
MSI-Plessey		
Enable	Off	
Check and Transmit Check Digits	On	
Single MOD10 Check	On	
Max Message Length	48	
Min Message Length	4	No less than 4

工場出荷時デフォルトリスト

PDF417		
Enable	On	
Read Single PDF417 Only	On	
Max Message Length	2710	
Min Message Length	1	
Read Forward Direction Barcode Only	On	
QR Code		
Enable	On	
Read Single QR Only	On	
Max Message Length	7089	
Min Message Length	1	
Aztec		
Enable	Off	
Max Message Length	3832	
Min Message Length	1	
Reading Multi-barcodes of an Image	Off	
Data Matrix		
Enable	On	
Max Message Length	3116	
Min Message Length	1	
Read Single DM Only	On	
Rectangular Symbols	On	
Read Forward Direction Barcode Only	On	
Maxicode		
Enable	Off	
Max Message Length	150	
Min Message Length	1	

AIM ID リスト

Symbol	AIM ID	Possible AIM ID Modifiers(m)
Code 128]C0	
UCC/EAN-128]C1	
EAN-8]E4	
EAN-13]E0	
EAN-13 with Addon]E3	
UPC-E]E0	
UPC-E with Addon]E3	
UPC-A]E0	
UPC-A with Addon]E3	
Interleaved 2 of 5]Im	0,1,3
ITF-6]Im	1,3
ITF-14]Im	1,3
Code 39]Am	0,1,3,4,5,7
Codabar]Fm	0,2,4
Code 93]G0	
Code 11]Hm	0,1,3
ISBN]X0	
Industrial 25]S0	
Standard 25]R0	
Plessey]P0	
MSI-Plessey]Mm	0,1
GS1 Databar]e0	
EAN•UCC Composite]em	0-3
PDF417]Lm	0-2
QR Code]Qm	0-6
Aztec]zm	0-9, A-C
Data Matrix]dm	0-6
Maxicode]Um	0-3

参考：

ISO/IEC 15424:2008

情報テクノロジー - 自動認識とデータキャプチャ技術

データ媒体認識 (シンボロジー認識を含む)

Code ID リスト

Symbol	Code ID
Code 128	j
UCC/EAN-128	j
EAN-8	d
EAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5	e
ITF-6	e
ITF-14	e
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	i
Code 11	H
GS1 Databar	R
EAN•UCC Composite	y
ISBN	B
Industrial 25	I
Standard 25	f
Plessey	n
MSI-Plessey	m
PDF417	r
QR Code	s
Aztec	z
Data Matrix	u
Maxicode	x

シンボロジー ID ナンバー

Symbol	ID Number
Code 128	002
UCC/EAN-128	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
Interleaved 2 OF 5	008
Code 39	013
Codabar	015
Code 93	017
ISBN	024
Industrial25	025
Standard25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
EAN•UCC Composite	030
GS1 Databar	031
PDF417	032
QR Code	033
Aztec	034
DataMatrix	035
Maxicode	036
User-Define Code	041
SPEC_OCR_B	064